

年 表

1. 1872 年（明治 5 年）以前の国内事項については陰暦を使用。
2. 国内・国外事項については「近代日本総合年表」（岩波書店発行）、歴史学研究会編「日本史年表」（岩波書店発行）、日本書籍出版会編「日本出版百年史年表」を参考。
3. 昭和 22 年以降定例的に開催の展覧会等については第一回開催のみを収載し、会名末尾に㊦印を付した。

下記にこれらの展覧会名を開催年順に列挙しておく。

「梶会洋画展覧会」 昭和 22 年～毎年開催（昭和 25 年、26 年は除く）。昭和 48 年第 25 回を以って中断。

「海外新聞雑誌見本展示会」 昭和 25 年～毎年秋開催。昭和 42 年「外国雑誌新聞見本展示会」と改称。

「葵会洋画展覧会」 昭和 27 年～毎年秋開催。昭和 40 年第 14 回を以って中止。

「欧米医学書展」 昭和 30 年～日本医学総会（4 年に 1 回）開催地の本支店に於いて開催。昭和 46 年～48 年の 3 年間は本店に於いて毎年開催。

「海外複製名画即売展」 昭和 32 年～毎年年末・年始開催。

「今日のクラフト展」 昭和 34 年～毎年開催。昭和 46 年を以って終了。

「豪華本・特装本・限定版の会」 昭和 36 年～随時開催。昭和 54 年第 10 回開催。

「せかいの絵本展示即売会」 昭和 38 年～毎年秋開催。

「七人会展」 昭和 39 年～毎年開催。

「ソ連学術図書雑誌展」 昭和 40 年～随時開催。昭和 52 年第 8 回開催。

「司会洋画展」 昭和 40 年～名古屋支店に於いて毎年開催。

「世界絵本作家原画展」 昭和 41 年～毎年春開催。

「丸善洋画小品展」 昭和 45 年～毎年開催（昭和 51、52 年は年 2 回）。

「欧米稀観書展」 昭和46年、48年及び昭和51年以降毎年開催。

「一陽会展」 昭和46年～昭和50年第5回迄毎年開催、以後中断。昭和56年再開。

「光風会展」 昭和46年～随時開催。昭和52年第5回開催。

「二紀会展」 昭和47年～毎年開催（昭和50、52年は除く）。

「東光会展」 昭和48年～毎年開催（昭和51、53年は除く）。

「あしの会展」 昭和48年～毎年開催。

「世界のファッション・インテリア誌展」 昭和48年～毎年春開催。

「クラフトセンター・ジャパン日常茶飯事展」 昭和48年～随時開催。

「ヨーロッパの美術書展」 昭和48年～毎年開催。昭和49年「世界の美術書展」と改称。

「二科会会員展」 昭和48年～随時開催。昭和50年第2回開催。

「漫画家の絵本の会」 昭和49年～毎年1月開催。

「年始め洋書そと市」 昭和49年～毎年1月開催。

「海外地図即売展」 昭和49年～随時開催。昭和53年第4回開催。

「現代日本版画秀作展」 昭和51年～毎年開催。

「サムホール逸品展」 昭和52年～毎年開催。

「春支度歳の市 江戸千代紙と江戸おもちゃ即売展」 昭和52年～毎年年末開催。

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1837(天保 8)年		
	8.9 早矢仕有的美濃国武儀郡	
	笹賀村に生れる	
1853(嘉永 6)年		6.3 ベリー浦賀へ来航
1854(嘉永 7)年	- 早矢仕有の名古屋で医学の	3.3 日米和親条約(神奈川条約)調印
	修業を終え帰郷	
1858(安政 5)年		6.19 日米修好通商条約(下田条約)及貿易章程調印
		9.7 安政の大獄始まる
		10.- 福沢諭吉築地鉄砲洲に蘭学塾を開く(慶応義塾の前身)
1859(安政 6)年	9.- 早矢仕有の医学修業のため江戸へ出る	
1860(万延元)年	6.- 早矢仕有の日本橋橘町に於て医師を開業	1.13 幕府の軍艦咸臨丸米国へ出航(福沢諭吉随行)
		3.3 桜田門外の変
1862(文久 2)年	- 早矢仕有の両国薬研堀へ転居	4.12 米南北戦争勃発
		8.21 生麦事件起る
		9.11 幕府留学生榎本武揚ら11人オランダへ出発
1863(文久 3)年	- 早矢仕有の旗本諏訪新吉郎の妹なをと結婚	7.2 薩英戦争起る
1864(元治元)年		8.5 英米仏蘭四国艦隊下関を攻撃
1867(慶応 3)年	2.12 早矢仕有の慶応義塾に入塾, 本所番場へ転居	4.- パリ万国博覧会開催
		10.14 徳川慶喜朝廷へ大政奉還
1868(明治元)年	8.- 早矢仕有の横浜梅毒病院院長に任命される, 横浜真砂町に下宿(後に新浜町へ転居)	1.3 戊辰戦争起る
		3.14 五箇条の御誓文宣布
		4.11 江戸を開城
		7.17 江戸を東京と称す

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1869(明治 2)年 1.1 早矢仕有の横浜新浜町に丸屋商社(丸屋善八店・書店)創業, 後に相生町 2 丁目へ移転(薬店併設)	1.1 「丸屋商社之記」制定 - 相生町薬店に於て医学生を養成	1.27 国書刊行規定(官許納本制) 3.28 東京奠都 5.13 出版条令公布 6.17 版籍奉還 7.8 大学校設立 12.25 東京横浜間電信開通 - 瑞穂屋創業
1870(明治 3)年 3.- 日本橋品川町裏河岸(通称釘店)に島屋善六店開設, 書店・薬店を経営, 担当柴田安藏 - 日本橋通 3 丁目 14 番地に丸屋善七店(書店)開設, 担当三次半七	8.21 沢井秀造死去 - 横浜堺町 1 丁目に静々舎(診療所)開業	1.3 大教宣布の詔勅 3.- 本木昌造新塾活版製造所設立 9.19 平民の苗字使用を許可 10.19 九十九商会(三菱商会の前身)創業 11.- 吉川書房(吉川弘文館の前身)創業 12.8 「横浜毎日新聞」創刊
1871(明治 4)年 1.- 大阪南久宝寺町堺筋西入に大阪支店(丸屋善藏店)開設, 書店・薬店を経営, 担当桜井慶三(後に大塚熊吉) 3.- 日本橋丸屋善七店北隣に唐物店開業, 担当柴田安藏 12.- 大阪支店心齋橋筋北久宝寺町 4 丁目へ移転 - 相生町の書店・薬店を堺町 2 丁目 2 番地へ移転(静々舎も薬店南隣へ移転)	12.- 横浜堺町 2 丁目に細流会社(積立貯金組合)設立 この頃薬品の仕入先は外人商館ブラオル, ハルトリー, ハーゲン, マルコム	1.24 東京・京都・大阪間に郵便法施行公布 4.4 戸籍法制定 5.10 新貨条令公布 7.14 廃藩置県 8.9 散髪魔刀を許可 10.8 岩倉具視らを遣欧米使節として派遣, 11.12 出発 11.3 津田梅子ら 5 少女米国に留学, 11.12 出発
1872(明治 5)年 8.- 京都二条通柳馬場東に京都支店(丸屋善吉店)開設, 書店・薬店を経営, 担当氏家直助(後に柴田安藏) 11.23 日本橋通 3 丁目に仕立店開業(慶応義塾仕立局を継承)担当高橋岩路	3.- サンフランシスコのローマン社と書籍・文房具輸入の契約を結ぶ 5.- 中村道太芝日陰町に洋物店中村屋開業, 翌年京橋南伝馬町へ移転 12.- 中村道太入社 - 横浜の薬店 2 階に研究舎開設(英学研究生を養成)	4.22 東京大阪間電信開通 8.3 学制を制定 9.13 新橋横浜間鉄道開通 9.17 資生堂創業 10.- 富岡製糸操業開始 11.9 太陽曆廃止, 太陽曆採用 12.3 を明治 6.1.1 とする 11.15 国立銀行条令公布

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
この年の丸屋商社人員、本店10人、相生町店2人、島屋6人、善七店4人、大阪店8人計30人 1873(明治6)年 1.1 横浜弁天通4丁目に唐物店開業、主任富芳和助 2.- 仕立店銀座2丁目6番地へ移転 10.- 社則12条制定 - 横浜の書店弁天通2丁目へ移転(薬店は7年頃移転?) - 横浜太田町の指富(西洋家具店)を買収、担当服部源助(後に東京尾張町2丁目4番地へ移転) 1874(明治7)年 5.- 死亡請合規則(全11条)制定、10.2.1死亡積金規則と改称 5.- 唐物店(日本橋)中村屋を合併、卸売を開始 8.- 名古屋本町8丁目9番地に名古屋支店(丸屋善八出店)開設、書店・薬店経営、担当田原晴 12,3年頃本町2丁目68番地へ移転 - 日本橋本町2丁目14番地に丸屋薬店開店、担当三次半七 - 島屋閉店 - 京都支店寺町通姉小路上ルへ移転 1875(明治8)年 2.- 大阪支店薬店を分離、道修町2丁目34番地へ薬店移転、主任瀬古宗七 - 横浜の唐物店弁天通2丁目へ移転	1.- 早矢仕有的弁天通唐物店へ転居 7.- 西洋帳合之法公開講習実施(於善七店) 12.- サンフランシスコのローマン社より石板・石墨等到着 1.- 細流会社規則改正 - 伊勢の万古焼急須を米国へ輸出 - ロンドンのショルト・ショルト及ウェーランド社と取引開始 1.1 日本橋通3丁目唐物店隣に交銀私局設立(貯蓄銀行営業)「交銀私局の記」制定 4.- 東京の薬店に診療所併設、杉田玄端・桐原真郎等診療担当(後に坪井信良加わる)	1.10 徴兵令布告 7.30 工部省工学寮工学校設立 7.- 文部省「チャンパース百科全書」和訳版刊行開始 7.- 平野富二策地に活版印刷と活字・印刷機の製造販売(東京築地活版製造所の前身)を開始 8.1 第一国立銀行開業 10.9 開成学校開校 - 明六社結成 2.2 聖公会英語学校(立教大学の前身)設立 3.13 東京に女子師範学校設立 12.- 東京開成学校の購入洋書(7年間)英書8,932部、仏書5,482部、独書3,386部、計17,800部 - 十字屋書店開店 1.25 金原医籍店(金原出版の前身)創業 4.- 清水誠マッチ製造開始(新燧社の起源) 6.28 讒謔律・新聞紙条令公布 9.- 商法講習所(一橋大学の前身)開設 11.29 同志社英学校(同志社大学の前身)創立 - 金港堂創業

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1876(明治 9)年 11.29 京橋方面大火, 丸屋日本橋店類焼, 12.3 より営業開始	1.1 交銀私局内に公債證書保護社中結成, 交銀私局日本橋檜物町 10 番地へ移転 11.- 新麓社製マッチの独占販売権を得る - 須賀磯八心齋橋筋に医療器械店開店	3.15 公文書のインキ使用禁止 3.28 廃刀令公布 7.1 三井銀行開業 7.29 三井物産会社創業 8.14 札幌農学校(北海道大学農学部の前身)開校 10.9 秀英舎(大日本印刷の前身)開業
1877(明治 10)年 2.1 社則改正(全 14 条)	1.1 日本橋檜物町 10 番地交銀私局内に自力社会設立 1.- 交銀私局内に東京積金社中を設立 2.- 丸屋商社人員 86 人 - 中屋開店(交銀私局隣)主として簿記用罫紙を販売 - 第 1 回内国勸業博覧会に指物店より西洋家具を出品 - コレラ流行のため薬店の官許コロリ予防薬・コロリ消毒薬の売行良好	1.1 有史閣(有斐閣の前身)創業 2.15 西南戦争勃発 4.12 東京開成学校・東京医学校を合併し, 東京大学と改称 4.24 露土戦争勃発 6.1 万国連合郵便条約加入調印 8.21 第 1 回内国勸業博覧会開場 8.- コレラ流行 10.17 学習院開校
1878(明治 11)年	- 安井敬七郎インキ・複写紙・コンニャク版を製造販売	2.4 春陽堂創業 4.15 工部大学校開校 4.26 化学会(日本化学会の前身)創立 5.4 東京株式取引所開業
1879(明治 12)年 - 京都支店閉店 - 須賀磯八の医療器械店を道修町薬店に合併	1.- 細流会社・東京積金社中規則改正 2.- 早矢仕有的袖奈川県会議員に当選(明 13.6 辞職) 6.- 「和洋諸物品値段書」発行 7.- 早矢仕有の本所に共立商社設立 10.20 日本橋檜物町 10 番地に丸家銀行設立, 資本金 7 万円, 頭取奥平昌邁 - 王子製紙製造の洋紙売捌所となる	1.15 東京学士会院(日本学士院の前身)設立 1.25 「朝日新聞」創刊 2.1 南江堂創業 9.29 学制廃止, 教育令制定

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1880(明治13)年 2.25 社則改定, 定款制定(本文43条) 3.30 丸屋商社を株式組織に改組し, 責任有限丸善商社と改称 資本金15万円, 1株額面100円 本店を東京へ移転, 支店7店 早矢仕有の社長選任, 丸屋善八 丸屋善七・朝吹英二・阿部泰蔵・ 金沢廉吉取締役選任, 伊村克巳 検査役選任 - 横浜の書店弁天通3丁目14 番地へ移転	2.23 横浜正金銀行設立, 資本金300万円, 頭取中村道太 6.25 丸家銀行資本金15万円に増資 7.20 日本橋区西河岸町15番地に貿易商会設立, 資本金20万円, 内外商品の直輸入業経営, 8.5 横浜本町4丁目58番地に横浜支店開設 7.25 奥平昌遇丸家銀行頭取辞任, 近藤孝行頭取に選任 8.27 丸家銀行日本橋区大伝馬町1丁目27番地へ移転 9.- 貿易商会ウラジオストック出張店開設(ニューヨーク, ロンドン, リヨン各出張店開設) 11.- 貿易商会規則制定 - 横浜堺町2丁目内外介商店開設, 生糸・茶の販売及内外物産の代理売買を営む, 後に弁天通2丁目26番地書店跡へ移転 - 洋書目録刊行開始	1.25 交詢社設立 4.5 集会条例公布 9.12 東京法学社(法政大学の前身)開校 12.8 明治法律学校(明治大学の前身)設立
1881(明治14)年 2.15 株主総会開催日を毎年2月15日に変更 10.- 横浜の唐物店閉店	3.- 内国勸業博覧会に於て丸善インキ有功賞受賞 9.21 神田区表神保町2番地に中西屋(掃葉軒)開店 10.25 内外介商店内に横浜丸善為換店開業, 資本金5万円 - 仕立店高橋岩路退社	4.5 大日本農会設立 4.8 三省堂創業 5.26 東京職工学校(東京工業大学の前身)開校 7.9 明治生命保険会社開業 10.11 明治14年の政変 10.21 松方財政開始 - 服部時計店開業
1882(明治15)年 - 横浜の書店弁天通4丁目62番地へ移転(16年頃?)	1.- 日本橋檜物町10番地に丸善為換店開業, 資本金5万円 12.30 金沢廉吉死去	1.4 軍人勸諭発布 3.1 「時事新報」創刊 6.25 東京馬車鉄道新橋・日本橋間開通 10.10 日本銀行開業 10.21 東京専門学校(早稲田大学の前身)開校

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1883(明治16)年 - 名古屋支店京町1丁目72番地へ移転	4.- 京橋区南伝馬町1丁目に業書閣創業、担当早矢仕明治 6.1 丸家銀行交銀私局及東京丸善為換店を合併、檜物町10番地へ移転 6.- 貿易商会東京本店を廃止、横浜支店を本店とする 10.- 「和洋書籍及文房具時價月報」発行	5.- 中江兆民等東洋出版会社設立(欧米書籍の翻訳出版) 7.2 「官報」第1号発行 7.31 教科書採択許可制施行 8.1 小野梓東洋館(富山房の前身)創業 11.28 鹿鳴館開館
1884(明治17)年 3.11 日本橋区通3丁目17番地に菱屋開店、馬具・革細工品販売(林亀吉と共同経営) 5.- 名古屋支店を村松彦七へ譲渡	1.- 内外介商店横浜本町2丁目26番地へ移転、生糸・茶の販売を笠原恵へ譲渡 4.- 丸家銀行支払停止、近藤孝行頭取辞任、早矢仕有的頭取就任 - カウス・スタイログラフィックペン輸入販売 - 「和洋諸物品値段書」を「和洋品相場書」と改称	6.7 商標条例及商標登録願手続公布 7.1 柏原洋紙店創業 12.4 甲申事変起る - 小山梅吉ネクタイ製作 - 二重回し流行
1885(明治18)年 1.20 早矢仕有的社長辞任、松下鉄三郎社長就任、小柳津要人須賀磯八取締役選任 5.- 金原明善丸家銀行隣に東里為替店開業 7.- 菱屋日本橋区通3丁目10番地へ移転、営業品目に西洋小間物追加 - 東京薬店伊勢町へ移転(間もなく閉店) - 横浜薬店を鬼頭良助へ譲渡 - 横浜書店・大阪書店を細流会社へ譲渡、丸屋書店と改称、指物店・裁縫店を分離	7.- 貿易商会ウラジオストック、ニューヨーク各出張店閉鎖 - 安井敬七郎入社、外国製洋酒詰替、ブドー水・蜜柑酒・レモン水製造担当、洋酒部と称す	9.10 英吉利法律学校(中央大学の前身)開校 10.1 日本郵船会社開業 12.22 太政官制度廃止、内閣制度開始、第1次伊藤内閣成立 - 教文館創業 - 明治屋創業
1886(明治19)年 - 横浜丸屋書店二階に唐物店出張店開設、洋品雑貨の輸入及仲介を営む(後の輸入部)	3.23 三次半七死去 - 貿易商会・横浜丸善為換店閉店	3.2 東京大学を帝国大学に改組 10.21 東京専門学校出版部(早稲田大学出版部の前身)創業

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1887(明治20)年 - 洋酒部を工作部と改称, 主任安井敬七郎	3.- 東京府工芸品共進会に出品の唐物店・工作部製靴・鞆・筆搦板3等賞受賞 - 中西屋の一郭に池田次郎吉文具店開業(文房堂の濫觴)	11.5 伊勢屋丹治呉服店(伊勢丹デパートの前身)開店 - 白木屋洋服部婦人用東(アヅマ)コート創案発売 1.22 明治学院設立認可 2.- 民友社創業, 「国民之友」発行 3.23 所得税法公布 5.21 学位令公布 6.1 博文館創業 11.6 東京書籍出版業者組合結成 12.26 保安条例公布 12.28 新聞紙条例・版權条例・改正公布 - 上流婦人間に洋装流行
1888(明治21)年 11.- 日本橋区通3丁目16番地所在矢沢亀甲店買収, 菱屋を移転 - 菱屋馬具類の販売を中止, 輸入洋品雑貨の小売販売開始	4.- 叢書閣独立 5.26 丸家銀行破産 12.25~29 菱屋移転記念景品付大売出し - 貿易商会解散	1.4 時事通信社創立 4.25 市制・町村制公布 7.10 「東京朝日新聞」発刊 12.20 特許条例・寛政条例公布 - 資生堂福原衛生歯磨・石鹸製造発売
1889(明治22)年 1.- 静岡県周智郡気田村に菱屋気田出張店開設, 主任柴田猶次郎(23年頃閉鎖)		1.3 「朝日新聞」「大阪朝日新聞」と改称 2.11 大日本帝国憲法発布・皇室典範制定 - 小川一真コロタイプ製版印刷所開設 7.1 東海道本線全通 11.3 大倉孫兵衛洋紙店(大倉洋紙店の前身)創業
1890(明治23)年 - 村松彦七所有の名古屋支店を野崎覚次郎へ譲渡	10.- 電話開設, 番号28番 - 第3回内国勸業博覧会に於て靴墨・早印刷器3等有功賞受賞	2.1 「国民新聞」創刊 3.25 女子高等師範学校(お茶の水女子大学の前身)設立 4.26 商法公布 7.1 第1回衆議院議員総選挙 10.30 教育勅語発布

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1891(明治24)年 5.1 工作部条規制定,唐物店の管轄となる,部長安井敬七郎		11.20 帝国ホテル開業 11.25 第1通常議会召集 - 金融恐慌,銀行の休業・営業停止続出
1892(明治25)年	1.27 安井敬七郎退社 4.10 神田大火,中西屋罹災	1.12 東京・大阪商業会議所設立認可 3.- 黒ラシヤ高帽子流行 5.11 大津事件起る
1893(明治26)年 4.1 社債(4朱利付4万円・6朱利付4万円)発行 11.14 社名を丸善株式会社と改称,資本金20万円,松下鉄三郎専務取締役選任,小柳津要人・須賀磯八・竹内半左衛門・早矢仕有の取締役選任,鈴木幾作・永井松右衛門監査役選任 12.1 横浜唐物出張店菱屋二階へ移転 - 大阪丸屋書店買収,大阪出張所開設,主任柴田錠十郎	8.- 唐物店竹本康治販路開拓のため北海道へ出張	3.25 日本文庫協会(日本図書館協会の前身)創立 6.17 小包郵便法公布 11.1 「万朝報」創刊 11.30 北里柴三郎伝染病研究所設立 - 毛糸の織物製品増加
1894(明治27)年	この頃日の丸齒磨製造開始	4.14 出版法・版權法公布 7.1 商法一部施行 7.- 御木本幸吉養殖真珠に成功
1895(明治28)年 3.24 竹内半左衛門取締役退任 3.28 須賀磯八へ大阪薬店譲渡(丸善薬品産業(株)の前身) 7.25 金原明善財政整理開始,鈴木仁一郎監督の下に棚卸施行	- 唐物店・書店の売上げ日清戦争の影響により増進 この頃米国製ウォーターマン万年筆輸入販売	12.25 関根常五郎墨汁の特許取得 - 山高帽子普及
		7.16 日英通商航海条約調印 8.1 日清戦争勃発 - 服部時計店銀座尾張町に時計塔設置
		1.- 「太陽」創刊 4.17 日清講和条約調印 4.23 独仏露三国干渉 5.10 遼東半島還付 10.6 博報堂創業

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1896(明治 29)年 2.28 株主配当停止を決議 5.1 内規制定施行 この頃唐物出張店を輸入部と改称	4.22 伊村克巳死去 - 中西屋支配人伊村金之助	10.8 関妃暗殺事件起る 11.15 「東洋経済新報」創刊 3.15 日本郵船欧州定期航路開始 3.22 日本銀行新築落成 4.6 第1回近代オリンピック開催(～4.15) 6.9 山県・ロバノフ協定調印 7.10 新聲社(新潮社)創業 7.- ライオン歯磨発売 11.25 キネトスコープ初公開
1897(明治 30)年	2.- 唐物店洋酒販売中止, 東京洋酒商組合脱退 3.15 「学の燈」創刊, 「和洋書籍及文房具時價月報」を併合 6.- 高須信経入社, インキ製造担当 - ペリカン万年筆(デ・ラ・ルー製)輸入販売	3.22 「ジャパン・タイムス」創刊 4.27 東京図書館を帝国図書館と改称 6.22 京都帝国大学設立, 帝国大学を東京帝国大学と改称 7.5 労働組合期成会結成
1898(明治 31)年 5.20 金原明善と松下鉄三郎他12名の盟約者間に財政整理の誓約書交換 6.20 菱屋を丸善株式会社洋物店, 唐物店を丸善株式会社洋物卸店と改称	8.- 丸善最上インキ製造発売(従来のインキを並インキと呼称) - さくら歯磨製造発売 - 野崎覚次郎名古屋丸屋を佐藤次郎へ譲渡 この頃商品切手発売(横浜丸屋書店・薬店共通) - 叢書閣廃業	6.30 隈板内閣成立(最初の政党内閣) 10.15 日本美術院創立 10.18 社会主義研究会結成
1899(明治 32)年 2.5 大阪出張所支店に昇格, 支店長金沢末吉 7.1 大阪支店東区博労町4丁目114番地へ移転	- 外国雑誌・新聞予約者直送を開始(発案-荒川実)	1.15 「中央公論」発刊 3.2 特許法・意匠法・商標法各公布 3.4 著作権法公布 3.14 関税法公布 3.- 義和団蜂起 6.16 新商法施行 7.17 改正条約実施 10.12 ボーア戦争起る

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
11.11 図書館令公布 1900(明治33)年 1.16 専務取締役(2代社長)松下鉄三郎死去 1.20 小柳津要人専務取締役(3代社長)選任 2.24 金沢井吉・中村重久取締役選任, 金沢林平監査役選任, 須賀磯八取締役退任, 永井松右衛門監査役退任 3.- 本郷区駒込千駄木町82番地所在メリヤス工場(福沢キヨ所有)を買収, 4.1より当社の経営となる, 資本金2千円, 工場責任者渡辺源次郎 1901(明治34)年 2.18 早矢仕有的死去, 小石川多福院に埋葬 8.1 金原巳三郎と松下領三他12名の盟約者間に誓約書改め契約書を交換 1902(明治35)年 2.24 株主配当再開(年6分) 2.24 鈴木仁一郎・和田治衛監査役選任, 鈴木幾作監査役退任 5.7 駒込メリヤス工場名義人を小柳津要人に変更 11.17 監査役金沢林平死去 12.- 機構改革, 業務を総務・書籍・洋物の3部分ける 1903(明治36)年 2.10 山崎信典・斎藤定四郎取締役選任 5.19 工作部駒込工場へ移転, 丸善工場と改称, 第一部(莫大小製造)資本金2千円, 第二部(インキ・齒磨製造)資本金2千	1.1 金原銀行東里為替店を合併 - 米国製ウェリントン No. 2 タイプライター輸入販売 - カウス, スウェプト万年筆輸入販売 - 内田魯庵入社, 「学の燈」編集担当 2.3 福沢諭吉死去 9.7 洋物卸店福井楼に於て競市開催(輸入部・田村彦兵衛と共同)売上-洋物卸店2,500円・輸入部500円 1.- 「学の燈」「学燈」と改題, 19世紀欧米名著書名投票発表第1位ダーウィン「種の起源」 10.19 東京専門学校(早稲田大学)改称を祝し “Stories of Nations” 56巻を寄贈 12.- 「大英百科全書」第9版25巻月賦予約販売開始, 予約数1,125, 36年補遺11巻約300 1.- 「学燈」を「学鑑」と改題 3.- 「センチュリー大字典」10巻月賦予約販売, 予約数459, 39年第2回2,300 5.- 「学鑑」特別号発行 - 本店店内模様替, 畳敷廃止,	1.- 凸版印刷設立 3.10 治安警察法公布 4.- 自動車初輸入 4.- 「明星」創刊 6.- ミシン初輸入 9.14 津田梅子女子英学塾(津田塾大学の前身)設立 10.15 三井呉服店新築開店(座売り廃止) 1.- 教科書疑獄事件起る 2.- 黒沢貞次郎カナ文字タイプライター製作 4.20 日本女子大学校開校 5.20 社会民主党結成 7.1 日本広告会社・電報通信社(電通の前身)創立 - 第1回ノーベル賞授賞 1.12 東京書籍営業組合を東京書籍商組合と改称 1.30 日英同盟協約調印 1.- シベリア鉄道開通 6.15 大橋図書館開館 - パナマ帽・リネン帽流行 5.24 神戸ゴルフ倶楽部設立 6.1 日比谷公園開園 8.22 東京市街電車新橋・品川間運転開始 11.15 週刊「平民新聞」創刊

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
5 百円 8.12 定款改正, 営業目的を図書文房具西洋小間物其他雜貨販売に変更	寄宿舎新設 - 「和洋品相場書」廃止, 「西洋小間物月表」発行 - 並インキ製造廃止 - ドラゴン, ドド, スペンセリアン万年筆輸入販売	
1904(明治 37)年 2.13 盟約者会開催, 盟約者所有株券分配方法及契約書改正を決議(財政整理完了)	3.- 「マイエル大百科全書」第 6 版 20 巻予約販売, 予約数 600 11.- 寄宿生のため夜間教育開始 - デンスモア, フランク リンタイプライター輸入販売	2.10 日露戦争勃発 10.- 慶応義塾学生消費組合設立 12.6 三井呉服店改組, (株)三越呉服店設立 - 絵はがき流行
1905(明治 38)年	1.- 夏目漱石「カーライル博物館」を「学鑑」に発表 9.11 「大英百科全書」第 10 版 35 巻月賦予約販売, 全 1 ページ新聞広告を行う, 予約数 4,200 - グラビチー万年筆輸入販売	2.11 森下南陽堂仁丹発売 2.16 実用新案法公布 4.4 早稲田大学野球部米国遠征 5.27~28 日本海海戦 7.1 「みずゑ」創刊 9.5 日露講和条約調印 9.5 日比谷焼打事件起る 10.14 山岳会(日本山岳会の前身)結成 12.21 京城に韓国統監府設置
1906(明治 39)年 1.24 金原巳三郎監査役選任, 和田治衛監査役退任	3.- 郵便振替貯金に加入, 口座番号-本店 5 番・大阪支店 74 番 12.- センチュリーインキ発売(底面隆起式瓶使用, 39.9.実用新案登録)	2.24 日本社会党第 1 回大会開催 3.20 帝国図書館開館 3.31 鉄道国有法公布 4.3 中山太陽堂クラブ洗粉発売 5.11 日米著作権保護条約公布 6.12 日本エスベラント協会設立 11.1 東京の共立女子職業学校タイプライティング講習科開設 11.26 南満州鉄道(株)設立 - ナショナル・キャッシュ・レジスター輸入販売

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1907(明治 40)年 6.- 東京市区改正により本店 212 坪を東京市に買収される 7.1 京都市下京区三条通駄屋町西入弁慶石町 34, 35 番地に京都支店再び開設, 支店長島崎菊雄 10.22 本店新築工事着工 12.- 丸善工場メリヤス・齒磨の製造中止	3.- 「ネルソン百科全書」10 巻 予約販売, 予約数 4,500 7.- 「マイエル小百科全書」第 7 版 6 巻予約販売, 予約数 500 11.- ケンプフェル「日本歴史」250 部特価販売 - オリバータイプライター, オート万年筆輸入販売	4.2 夏目漱石東京朝日新聞社に入社 6.22 東北帝国大学新設 10.25 第 1 回文部省美術展覧会(文展)開催 11.3 英語研究社(研究社の前身)創業 - 婦人にリボン流行, マンドリン学生間に流行
1908(明治 41)年 1.24 金沢末吉取締役選任, 金沢井吉取締役辞任 10.16 資本金 50 万円に増資 11.4 本店改築のため仮営業所で営業 12.3 本店新社屋上棟式举行	3.- 洋物部東京市内の小売店に卸売開始 3.- バレー自働研安全剃刀輸入販売 4.5 第 1 回名士講演会開催, 講師江原素六・海老名弾正 11.- 「歴史家の歴史」25 巻月賦予約販売, 予約数 1,600 - 「西洋小間物月表」を「洋物時報」と改題 - クラフト万年筆輸入販売	1.- 婦人之友社創業 3.- 西垣商店カーボン複写紙発売 4.1 奈良女子高等師範学校(奈良女子大学の前身)設立 4.3 大日本文明協会設立 11.16 東京市立日比谷図書館開館 12.7 公文書にインキ使用許可 12.- 書籍委託販売制度開始
1909(明治 42)年 12.10 本店仮営業所類焼(12.18 営業開始)	- ゼニス万年筆輸入販売	2.11 シベリア經由郵便取扱開始 7.1 横浜開港 50 年祭举行 12.13 横浜の有隣堂本店創業
1910(明治 43)年 5.1 赤煉瓦造本店新社屋完成, 中村達太郎・佐野利器設計, 清水組施工	6.- 三好学著「日本之植物界」「日本植物景観」を天皇・皇后陛下へ献上 7.- ゼニスインキ新発売(気圧付瓶使用) - インキ景品付特売	4.- 「白樺」創刊 5.14 日英博覧会開催 5.25 大逆事件の検挙開始 5.30 堀井新治郎輪転謄写機完成 8.22 日韓併合条約調印(国号朝鮮と改称) 12.22 九州帝国大学設立
1911(明治 44)年 7.- 福岡市外箱崎町に福岡出張員詰所設置	3.- オリオン万年筆輸入販売 6.13 夜学会開校式(会長金沢末吉) 6.- 「ネルソン百科全書」(1911	2.10 帝国劇場新築落成 2.21 日米新通商航海条約調印(関税自主権確立) 3.29 工場法公布

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
年版) 25 巻 予 約 販 売, 予 約 数 7,000 10.11 海外商況視察のため松 下領三書籍部仕入課長を欧米へ 派遣(大 2.1.21 帰国) - 英国スコット社製帽子輸入 販売(代理店となる) 1912(明治 45・大正元)年 1.24 監査役任期 2 年に変更 1.24 営業目的に図書出版を追加 1.- 庶務規定改正, 小柳津要 人・中村重久総支配人, 営業部 (部長 山崎信興)・庶務調査部 (部長 金沢末吉)・支店出張所監 督部(部長 斎藤定四郎)設置	6.1 青踏社結成,「青踏」創刊 9.28 トリポリ戦争勃発 10.10 辛亥革命勃発 10.- 「立川文庫」(大阪)創刊 11.15 東京市職業紹介所開設 - レコード, 蓄音器普及 1.1 南京臨時革命成立, 孫文 大總統就任(2.15 辞任) 2.12 宣統帝退任, 清朝滅亡 3.10 袁世凱大總統就任 7.30 天皇崩御(明治天皇と追 号)大正と改元, 皇太子 嘉仁踐 祚 8.1 友愛会(日本労働総同盟の 前身)結成 9.13 明治天皇大葬, 乃木希典 夫妻殉死
1913(大正 2)年 9.10 福岡市上西町18番地に福 岡支店開設, 書籍・文具販売, 担当斎藤定四郎	2.9 「スコット」の商標を登録 - 名古屋の丸屋書店を中区栄 町 6 へ移転 - 斎藤哲郎書籍補充調査用ス リップ考案 - 中西屋絵本の出版開始 2.5 「丸善スタンダード字書」 発売(1 年間に 3 万部販売) 2.20 神田三崎町大火, 中西屋 罹災(この年再建?) 4.1 名古屋丸屋書店を合名会 社に改組, 資本金 2 万円 9.- ロンドインキ製造発売 11.- 裏毛メリヤス製シャツ, ズボン下特価販売 - 丸善センチュリーペン発売 2.10 護憲運動騒擾化 2.11 トンボ鉛筆発売 4.8 日本新聞協会設立 5.3 ダイヤモンド社創業 5.31 上智大学開校 8.5 岩波書店創業
1914(大正 3)年	3.- アテナインキ東京大正博 覧会に於て金牌受賞 4.- ロイヤルタイプライター 日本総代理店となる 春頃バーバリー社製レインコー ト輸入販売 7.5 「新着洋書案内」発刊 夏- 麦稈帽子特価販売 12.- 英国ニコルソン社製外 套輸入販売 1.23 島田三郎議会においてシ ーメンス事件追及 3.20 東京大正博覧会開催 3.24 東京雑誌組合結成 3.26 「復活」初公演 3.31 売薬法公布 6.12 平凡社創業 6.28 サラエボ事件起る 7.28 第 1 次世界大戦勃発 8.23 ドイツに宣戦布告

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
1915(大正 4)年 4.1 福岡支店洋品取扱開始 5.- 機構改革, 庶務・営業・調査・支店監督の4部設置 10.21 仙台市国分町168番地に仙台出張所開設 1916(大正 5)年 1.24 営業目的に文房具製造を追加 1.24 中村重久専務取締役(4代社長)選任, 松下領三取締役選任, 小柳津要人事務取締役辞任, 相談役就任 1.24 決算期年2回に変更, 前半期1月~6月, 後半期7月~12月 1.31 駒込工場直営工場となる, 工場長斎藤豊四郎 2.1 仙台出張所支店に昇格, 支店長館村甚治 - 機構改革, 総務部・庶務部・営業部・調査部・支店監督部設置 1917(大正 6)年 1918(大正 7)年 2.- 資本金150万円に増資 12.20 専務取締役中村重久死	- ロイヤルタイプライター No. 5 輸入販売 - グローリー万年筆輸入販売 1.- 「学鑑」月2回発行 5.- アルビオンフランスペアレント万年筆発売 12.18 日本貿易協会貿易発展の功勞により故早矢仕有的に表彰状授与 - ドイツの書籍・新聞・雑誌の輸入途絶 - コロナ携帯用タイプライター, プルンスヴィガ計算機輸入販売 2.- 松花園製墨所買収, 墨汁製造開始 4.- 万年筆用アテナインキ製造発売 4.- 「大英百科全書」第11版29巻月賦販売, 予約数2,000 8.16 金原明善の功勞に対し養孫金原巳三郎へ感謝状及金2千5百円贈呈 - 英国政府へ嘆願の結果, 輸入途絶のドイツ書一部輸入開始 7.1 「マルゼン・アナウンスメント」創刊, 月1回発行(11.1より1日・15日の2回), 「学鑑」月1回発行に変更 4.- 丸善オリオンインキ製造発売 10.2 東京図書出版協会創立 12.20 東京駅開業 1.18 対華21カ条要求提出 6.12 杉本京太郎文タイプライター完成 8.18 全国中等学校優勝野球大会開催 11.10 大正天皇即位式 4.13 売薬部外品取締規則公布 5.29 タゴール来日 9.1 工場法施行 11.3 裕仁親王立太子礼挙行 9.1 暴利取締令公布 9.5 モリソン文庫設立 9.12 金輸出禁止(金本位制停止) 11.7 ソビエト政権成立, ロシア10月革命起る 1.- バイロット万年筆発売 3.23 戦時利得税法公布

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
去 1919(大正 8)年 1.24 山崎信興社長選任, 松下領三専務取締役選任, 荒川実取締役選任	- モンロー計算機輸入販売, 日本及満洲総代理店となる 3.22 創業 50 周年記念として早矢仕有的ほか先輩 6 氏の追慕会挙行, 全社員へ記念品配る	4.1 北海道帝国大学設置 4.30 東京女子大学開校 8.2 政府シベリア出兵を宣言 8.3 富山県に米騒動起る 11.11 第 1 次世界大戦終結 1.18 パリ講和会議開催 2.9 哲学者 J. デューイ来日 2.9 大原社会問題研究所設立 4.3 「改造」創刊 6.28 ヴェルサイユ条約調印 10.14 第 1 回帝国美術展覧会開催
1920(大正 9)年 4.- 機構改革, 書籍営業・洋物営業・出版・庶務の 4 部設置 10.1 資本金 330 万円に増資 10.1 横浜弁天通 2 丁目 28 番地丸屋書店を買収し横浜支店開設, 支店長藤倉八郎 10.1 神田区表神保町 2 番地中西屋を買収し神田支店開設, 支店長伊村金之助	10.2 名古屋丸善書店を合名会社名古屋丸善商店と改称 10.- 麴町区飯田町 2 丁目 47 番地(九段中坂)へ寄宿舎移転	1.10 国際連盟発足 1.13 森戸事件起る 2.11 東京で普選大示威行進 3.27 全国タイピスト組合結成 3.- 戦争恐慌始まる 5.2 日本最初のメーデー開催 5.17 全国書籍商組合連合会創立 6.16 神田中央職業紹介所開設 10.1 第 1 回国勢調査実施 この年慶応・早稲田ほか 6 私立大学大学令により設立認可
1921(大正 10)年 1.24 松下包次郎取締役選任 11.25 大阪支店新築落成, 鉄筋コンクリート造 4 階建, 26 日開店	- 大塚熊吉死去	7.17 B. ラッセル来日 11.4 原敬首相暗殺される 11.12 ワシントン会議開催 11.25 皇太子裕仁摂政となる 12.13 日英米仏四国条約調印 - 三越呉服店女店員の事務服制定
1922(大正 11)年 1.- 文具部・会計部新設, 書籍営業部を書籍部, 洋物営業部を洋物部と改称 3.1 名古屋市中区栄町 6 丁目の名古屋丸善商店を買収し名古屋支店開設, 支店長伊藤四良	5.1 早矢仕民治死去 9.- バレー自働研安全剃刀 C 型輸入販売 この年の外国書籍・雑誌・新聞の輸入金額約 45 万円	2.6 ワシントン会議で海軍軍備制限条約調印 2.25 「旬刊朝日」「週刊朝日」創刊 7.- 日本共産党非合法に結成 10.31 イタリアファシスト政

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
6.21 相談役小柳津要人死去 12.18 札幌市北8条西4丁目2番地に札幌出張所開設, 所長平原暹三郎 1923(大正12)年 1.14 東京府北豊島郡日暮里町大字元金杉777番地に日暮里分工場新設, 筆記用インキ・墨汁製造, 工場管理人齋藤豊四郎 1.25 日本橋本村木町に本社別館新築 3.10 丸ビル1階に丸ビル売店開設, 主任須賀正寿 4.24 芝区三田2丁目1番地に三田出張所開設, 所長中村春太郎 9.1 関東大震災により本店, 神田・横浜両支店全焼 9.1 神戸市明石町31番地に神戸出張所開設, 所長二味道治 9.3 駒込工場内に本社臨時事務所設置(11.30廃止)9.2三田出張所, 9.15丸ビル売店営業開始 9.21 神戸市三宮町1丁目264番地に輸入事務所設置(12.27廃止) 10.8 九段中坂寄宿舍に臨時売店開設(13.5.10閉鎖) 11.5 決算期を前半期2月~7月・後半期8月~1月に変更 12.1 本店及神田支店仮営業所(木造平屋建)新築落成, 開店 1924(大正13)年 1.8 横浜支店仮営業所開店 2.24 震災損失金補填のため諸積立金・職員慰労準備金の一部支出を株主総会で可決 5.14 本店営業所(木造2階建)新築落成 10.1 札幌出張所札幌市北8条西4丁目1番地に移転 12.30 日本橋区数寄屋町16番	櫛成立 11.18 アインシュタイン来日 - 子供服普及 1.1 文藝春秋社創業, 「文藝春秋」創刊 2.- 丸之内ビルディング竣工 5.15 白木屋神戸出張所百貨店初の土足入店実施 9.1 関東大震災起る 9.7 支払猶予令公布(9.1~30間モラトリアム実施) 9.16 大杉栄, 伊藤野枝ら殺される 9.22 臨時物資供給令公布 11.10 国民精神作興に関する詔書 この頃耳かかし髪型流行 1.10 第2次護憲運動発足 6.13 築地小劇場開場 7.1 改正度量衡法施行, メートル法使用開始 7.31 奢侈品課税法公布 11.1 日本図書館協会読書運動展開 - 洋服の実用化進み, 夏の簡単服流行し始める

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
地に本社第二別館新築 1925(大正 14)年		
9.5 インキ部新設, 神田区淡路町 2 丁目 4 番地に事務所設置	2.- スムースメリヤス発売 7.12~15 「米国新刊書見本陳列」	1.1 「キング」創刊 3.1 東京放送局試験放送開始(7.12 本放送開始)
	10.28 大阪市東成区林寺町265番地に大阪支店寄宿舎竣工	4.22 治安維持法公布
	10.29~11.10 「外国新聞雑誌見本陳列会」	5.5 衆議院議員選挙法公布(男子普通選挙実現)
	11.26~30 「スペシャルセール」	- ラジオ普及, セーラー服流行
	- アテナ万年筆新発売	
1926(大正 15・昭和元)年	1.- スイス製スキー輸入販売 6.5~15 「燕巢会第 1 回作品展」	4.1 京城帝国大学開校 8.6 日本放送協会設立
11.6 牛込区早稲田鶴巻町 440 番地早稲田大学出版部の代理部を買収し, 早稲田出張所開設	8.19 杉浦嘸インキ部長を商工省主催海外派遣旅商団へ派遣(山本治郎陪同, 昭2.3.25帰国)	12.3 改造社「現代日本文学全集」刊行, 頒価 1 円, 円本時代始まる
	- 「The Pocket Oxford Dictionary」15 年間に 4 万部販売	12.25 天皇崩御, 摂政裕仁親王踐祚, 昭和と改元
		- モダンガールの断髪流行, ハンドバッグ普及
1927(昭和 2)年	4.17~26 「燕巢会第 2 回作品展」	1.22 紀伊国屋書店創業 2.21 武漢国民政府樹立
2.10 東京市区画整理のため本社南側一部改築竣工	この年の外国書籍・雑誌・新聞の輸入金額 76 万円	3.15 京浜地方に銀行取付起り, 金融恐慌始まる
7.17 取締役斎藤定四郎死去		4.18 蒋介石南京に国民政府樹立
8.24 八田庄治取締役選任		4.22 3 週間のモラトリアム実施
12.11 横浜支店改築落成		5.28 第一次山東出兵 7.10 「岩波文庫」刊行開始
1928(昭和 3)年	3.14~20 「趣味の帽子展覧会」 3.28 大浦周蔵死去 5.13~22 「燕巢会第 3 回洋画展覧会」	9.6 武漢・南京政府合体 12.30 東京地下鉄道上野・浅草間開業(日本最初の地下鉄)
2.25 松下末三郎監査役選任		2.20 普通選挙での初の総選挙
9.1 横浜支店中区弁天通 2 丁目 34 番地に住居表示変更		4.10 日本商工会議所設立 6.4 張作霖爆死事件起る
10.31 神田支店改築工事のた		7.3 内務省特別高等警察課設

社 内 事 項	国内・国外事項
め休業(12.26 竣工, 28日開店) 12.1 本社日本橋区通2丁目6番地に住居表示変更	10.26 東京府北豊島郡滝野川田端大字東居村362番地に田端宿舍新築 10.- シーボルト「日本」予約販売, 予約数57, 日本総代理店となる - 丸善真黒インキ製造発売
1929(昭和4)年 4.1 京都支店中京区三条通麩屋町西入ルに住居表示変更 8.24 鈴木仁一郎取締役選任	3.- 大学卒業者の就職難深刻化 4.1 寿屋初の国産サントリーウキスキー発売 7.2 井上蔵相の緊縮財政始まる 8.19 飛行船ツェッペリン伯号霞ヶ浦に到着 10.24 ニューヨーク株式市場大暴落, 世界恐慌に拡大 11.21 金解禁公布 - ベニシリン発見 - 見切品・均一品・格安品等の名で特売・廉売日常化
1930(昭和5)年 2.6 神田支店神田区表神保町1番地に住居表示変更 2.24 八田庄治専務取締役選任, 松下末三郎取締役選任, 小柳津宗吾監査役選任 2.24 営業品目に売薬部外品・煙草を追加 6.20 京城府黄金町1丁目167番地に京城出張所開設	1.13 売薬部外品営業認可さる 2.- H. G. ウェルズ「世界文化史大系」(普及版)10ヵ月間に約13,000部販売 4.19 水木京太入社, 「学鑑」編集担当 10.- 「アナウンスメント」月3回(5日・15日・25日)発行 12.10 洋物部「バレー・ニュース」発行(12年廃止)
	4.22 ロンドン海軍軍縮条約調印 7.- 左翼出版物の輸入及密輸増加, 税関警戒強化 9.1 文部省優良図書推薦制度設置, 図書推薦規程公布 9.10 米価暴落 11.5 大原美術館開館 11.14 浜口首相狙撃され重傷を負う

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1931(昭和6)年 1.13 取締役松下末三郎死去 4.15 取締役松下包次郎死去	- スタンダード輪転機写真機 No. 5 輸入販売 1.1 インキ部「アテナ・ニュース」創刊 5.7 八田庄治専務・伊藤四良書籍部長を欧米商業視察に派遣(7.1.15 帰国) 5.- 「ハンマートン簡約万有百科全書」特価販売, 販売数 3,500 10.1~7 「哲学書関係特別展」 12.- ロンド輪転機写真機製造発売 - モンロー電動全自動式計算機輸入販売	12.15 東京府下15新聞社政府の言論圧迫に対し共同宣言発表 - 世界恐慌日本に波及 - ロングスカート流行 3.20 三越本店洋書部新設 3.- 3月事件起る 4.14 スペイン第2共和国成立 4.30 大阪帝国大学開校 9.18 満州事変始まる 12.13 金輸出再禁止 12.17 銀行券金貨兌換停止令公布, 為替相場暴落
1932(昭和7)年 8.24 営業目的を図書・新聞雑誌・化粧品・売薬・売薬部外品・煙草の販売及事務用器械器具・一般文具・インキ・洋品・服装品その他雑貨の製造販売, 図書の出版に細分	2.1 「丸善洋物ニュース」創刊(11年26号で廃刊) 2.5~15 「書籍に関する書籍の展覧会」 3.5~11 「法学書特別展」 3.15~25 「ゲーテ100年祭記念文献展覧会」 4.20~30 「新刊英書展覧会」 7.1~15 「珍奇皮革展覧会」 11.17~24 「天正使節渡欧350年記念珍籍展覧会」 - 国産文具の輸出始める	1.1 蒋介石新国民政府樹立 3.1 満州国建国宣言 5.15 5.15事件起る 6.- ナウカ社創業 9.15 満州国を承認, 日満議定書調印 12.16 白木屋百貨店火災 12.24 東京地下鉄道日本橋・京橋間開通 12.28 日本学術振興会設立
1933(昭和8)年 1.1 神田支店神田区小川町3丁目3番地の2に住居表示変更 3.14 名古屋支店中区栄町3丁目5番地に社屋新築落成, 翌日開店	3.- 田端の寄宿舎閉鎖 3.- “The Shorter Oxford Dictionary” 2巻特価月賦販売販売数約3,000 この頃「カスタマー・インデックス」完成 5.1~10 「匂ひの展覧会」 5.20~29 「沙翁文献展覧会」	1.30 ヒトラー独首相に就任 2.27 パーナード・ショー来日 3.4 ルーズベルト米大統領に就任 3.29 外国為替管理法公布 6.- 内務省出版物の検閲制度大改革, 出版警察の拡充を行う 10.21 五相会議国策大綱を決定

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1934(昭和9)年 2.- 台北市本町通台北ビルに台北出張所開設(大阪支店管轄) 3.- 札幌出張所札幌市北1条西4丁目徴兵ビル内へ移転	4.18 国際文化振興会に加入 4.24~5.3 「モリス誕生100年 祭記念文獻絵画展覧会」 5.3 「米国瞥見記」(八田・伊藤 欧米視察旅行記)出版、関係者に配布 7.- 丸善チェックインキ・製図用インキ製造発売 9.25~10.1 「今日の帽子展覧会」	4.18 帝人事件起る 4.18 国際文化振興会発会式 5.2 出版法改正公布 - パーマネント普及
1935(昭和10)年 4.8 慶応義塾予科日吉移転に伴い、神奈川県橋樹郡日吉村大字矢一本松468番地の6に日吉出張所開設 11.23 札幌出張所を北3条西3丁目大同生命館内へ移転	2.15~21 「ブルーノ・タウト指導小工芸品展覧会」 5.3~7 「山岳図書展覧会」 5.13~22 「伊丹利代表書籍展覧会」 - 洋書「ストックブック」完成	1.- 文藝春秋社芥川賞・直木賞設立を発表 2.18 天皇機関説問題起る 2.- 輸入出版物の検閲内務省警保局所管となる 2.- 湯川秀樹中間子論を発表 10.3 エチオピア戦争勃発
1936(昭和11)年 2.24 職制改正、副社長・常務取締役新設 2.24 金沢末吉副社長選任、八田庄治・荒川実常務取締役選任、金原巳三郎取締役選任 3.- 本社新築準備開始(後に日華事変勃発のため中止) 9.1 資本金500万円に増資 9.15 京城出張所支店に昇格、支店長諏訪多房之助、10.1 京城府本町2丁目3番地へ移転 11.1 神戸出張所支店に昇格、支店長村上英四郎	5.- 丸善製図用インキ11色発売 10.- インキをアルゼンチンへ輸出 11.13~19 「第2回ブルーノ・タウト指導小工芸品展覧会」 - 折たたみ傘製造発売	2.26 2.26事件起る 6.3 退職積立金及退職手当法公布 7.10 講座派学者一斉検挙 7.17 スペイン内乱始まる 8.7 五相会議国策の基準決定 11.25 日独防共協定調印 - 女性マフラー、セーラー男児服流行
1937(昭和12)年 3.15 山崎信興社長辞任、相談役就任、金沢末吉社長選任、荒川実専務取締役選任 4.1 札幌出張所支店に昇格、支店長吉田秀雄 4.1 日吉出張所横浜市神奈川区日吉町468番地に住居表示変	3.- 「アナウンスメント」月2回(10日・25日)発行に変更 3.- 洋物部「流行新相」創刊 4.- 丸善朱墨汁発売 5.24~30 「西洋好事本展覧会」 6.1 アテナインキ標語募集1等「ペンを持つ人皆アテナ」	1.8 輸入為替許可制実施公布 4.28 第1回文化勲章授与式 7.7 蘆溝橋事件起る 8.3 暴乱取締令改正公布、取締適用品目に紙類・パルプ加わる 8.14 百貨店法公布

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
更 6.14 相談役山崎信興死去 12.1 川村善之助監査役選任	9.10 輸出入品等臨時措置法公布により安全剃刀・化粧品の入途絶 10.1 創業70周年記念事業として社史刊行を企画、幸田成友博士へ執筆依頼 - ブルガリアからパーター貿易で香水(オットー、ゴヤ)輸入 - 綿製品スフ混用規則令により純綿製品の購入客急増	9.10 輸出入品等臨時措置法公布 10.11 臨時輸出入許可規則公布 12.13 南京大虐殺事件起る 12.27 商工省綿製品・スフ等混用(30%)規則公布
1938(昭和13)年 3.22 荏原区中延1004番地所在の坂齊万年筆工場を買収、12.16荏原工場として発足、万年筆製造 9.14 営業目的を図書新聞雑誌の出版販売、事務用器械器具・一般文具・インキ・万年筆・洋品・服装品・化粧品・売薬部外品その他雑貨の製造販売並輸出入、売薬煙草の販売及以上の目的を達するために他と共同経営又は他に投資をなし得ることに変更	5.- 外国雑誌予約注文中止 6.21 社歌「風に見よ」完成(作詩北原白秋、作曲山田耕作) 6.30 金沢井吉死去 - マルゼン計算機製造発売 - 綿レインコート製造中止	3.1 綿糸配給統制規則公布(最初の切符制) 3.13 独逸合併宣言 4.1 国家総動員法公布 5.2 満州国立建国大学開校 9.1 新聞用紙供給制限令実施 11.20 「岩波新書」刊行開始 - 和服に矢絣流行、若い女性に自肅髪型ロール巻流行
1939(昭和14)年 2.24 販売品目中に度量衡器追加 4.1 長崎市鍛冶屋町乙41番地に長崎出張所開店 4.1 日吉出張所横浜市港北区日吉町468番地に住居表示変更 9.1 大阪市東区博労町3丁目17番地にインキ部大阪出張所開設 11.15 日本橋区江戸橋3丁目2番地に昭和別館新築	2.27 創業70周年記念祝典行事を中止、陸海軍へ国防費としてそれぞれ3万円を献金 7.- 綿製品製造禁止のため絹紡糸使用ウェザーオールコート製造発売 10.1 毎日曜日休業となる 11.- 社旗制定、15.1.1より使用 11.- アテナ自働研安全剃刀製造発売 12.23 日本橋区通2丁目6番地に興亜貿易(株)を設立、文具部の文具事務器械製造・卸売・輸出入業務を継承、資本金19万8千円、代表取締役司忠 12.23 神田区淡路町2丁目5	3.31 賃金統制令公布 3.31 名古屋帝国大学設置 4.12 米穀配給統制法公布 5.12 ノモンハン事件起る 5.22 独伊軍事同盟調印 7.8 国民徴用令公布 9.1 第二次世界大戦勃発 10.18 価格統制令公布

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
番地に興亜商事(株)設立, 洋物部のインキ・化粧品・金物利器・洋服附属品等の製造・卸売・輸出入業務を継承, 資本金 19 万 5 千円, 代表取締役野口三郎 12. - 西宮市今津永井町 2 番 3 番地所在の太陽計算機製作所を買収, 資本金 45 万円(17. 4. 24 丸善計算機(株)と改称) - マルゼンタイムレコーダー発売 1940(昭和 15)年 2. 24 小柳津宗吾・伊藤四良・山崎民雄取締役選任, 村上英四郎・中村泰監査役選任 4. 3 新京特別市梅ヶ枝町 1 丁目 12 番地の 1 に新京出張所, 大同大街 302 号東京海上ビル 1 階に海上ビル売店, 大同区豊楽路 211 号に豊楽路売店開設 5. 15 書籍部を書籍販売部・洋書仕入部に分つ 8. 12 姫路市綿町 13 番地に神戸支店出張員詰所設置 8. 24 金原巳三郎取締役辞任, 相談役就任, 金原金二・野口三郎・司忠取締役選任 10. 19 臨時経理部設置 11. 1 インキ部駒込工場内へ移転 12. 10 京都支店中京区河原町通蛸薬師上ル奈良屋町 298 番地に社屋新築落成	番地に興亜商事(株)設立, 洋物部のインキ・化粧品・金物利器・洋服附属品等の製造・卸売・輸出入業務を継承, 資本金 19 万 5 千円, 代表取締役野口三郎 12. - 西宮市今津永井町 2 番 3 番地所在の太陽計算機製作所を買収, 資本金 45 万円(17. 4. 24 丸善計算機(株)と改称) - マルゼンタイムレコーダー発売 5. 25 本店二階に古書の陳列開始 5. - 大阪市東淀川区新高南通 2 丁目 8 番地所在の大阪時計電機工業を買収し丸善時計電機工業(株)と改称, タイムレコーダー製造, 資本金 19 万 5 千円 5. - 大阪府豊能郡庄内町大字菰江 259 番地に興亜電機工業(株)設立, タイムスタンプ・電気時計製造, 資本金 18 万円 6. 1 職員健康保険組合に加入 7. 末 社員宿泊所として淡路町インキ部 2 階増築 8. 5 日本橋区通 2 丁目 6 番地に(株)丸善洋物卸店設立, 洋物卸部のメリヤス製品卸売業務を継承, 資本金 18 万円, 社長金沢末吉 8. 12 日本橋区通 2 丁目 6 番地に(株)丸善服装雑貨卸店設立, 洋物卸部の帽子, 服装雑貨製品卸売業務を継承, 資本金 18 万円, 社長金沢末吉 8. 20 神田区淡路町 2 丁目 5 番地の 13 に東京丸善製品販売(株)設立, 文具部のインキ・文具卸売業務を継承, 資本金 18 万円 社長金沢末吉	3. 30 汪兆銘南京に国民政府樹立 5. 1 国民優生法公布 6. 18 古田晁筑摩書房創業 7. 6 奢侈品等製造販売制限規則公布 7. 8 暴利行為等取締規則改正, 価格表示明確化, ㊟・㊿・㊽の表示始まる 9. 27 日独伊 3 国同盟調印 10. 12 大政翼賛会発会式 10. 19 会社経理統制令公布 12. 19 日本出版文化協会設立 12. 28 洋紙配給統制規則公布

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
8.20 名古屋市中区南呉服町1丁目2番地に中部丸善製品販売(株)設立,文具部のインキ・文具卸売業務を継承,資本金15万円 社長金沢末吉 8.20 大阪市東区博労町3丁目17番地に大阪丸善製品販売(株)設立,文具部のインキ・文具卸売業務を継承,資本金18万円, 社長金沢末吉 8.20 福岡市下西町20番地に九州丸善製品販売(株)を設立,文具部のインキ・文具卸売業務を継承,資本金15万円,社長金沢末吉 8.20 札幌市北3条西3丁目1番地の1に北海道丸善製品販売(株)設立,文具部のインキ・文具卸売業務を継承,資本金15万円,社長金沢末吉 8.20 京都市本町2丁目3番地の2に朝鮮丸善製品販売(株)設立,文具部のインキ・文具卸売業務を継承,資本金15万円,社長金沢末吉 8.25 興亜商事を丸善商事と改称 8.26 中野区上高田1丁目252番地所在の荻村製本工場を買収し,(株)荻村製本所設立,資本金15万円 8.27 丸善特設防護団結団式挙行,団長荒川実 10.10 興亜貿易を丸善貿易と改称 10.- 丸善洋物卸店・丸善服装雑貨卸店日本橋区通3丁目1番地に移転 12.19 荒川実日本出版文化協会理事就任(16.9.辞任)	

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1941(昭和16)年 2.1 経理部新設 10.1 古書部新設 10.- 朝鮮窒素肥料会社興南工場内に京城支店出張所開設	6.19 京都市下京区西九条蔵王町39番地所在の(株)京都第一製作所を買収、輪転謄写器・タイプライター製造、資本金19万5千円、社長藤井勘三郎 10.- 古書買入れのため山崎民雄取締役・桜井喜代志上海へ出張 - マルゼン・タイムスタンプ製造発売 - 原料輸入難のため殆んどの化粧品製造中止	3.1 国民学校令公布 3.25 海外出版物輸入同業会結成 4.13 日ソ中立条約調印 5.5 日本出版配給(株)創立 5.14 貿易統制令公布 6.22 独ソ開戦 8.12 米英共同宣言発表 11.22 国民勤労報国協力令公布 12.8 日本軍ハワイ真珠湾空撃開始、米英両国に宣戦、太平洋戦争勃発 12.11 企業許可令公布 12.16 物資統制令公布 12.19 言論出版集会結社等臨時取締法公布 12.- 雑誌の整理統合進む - 防空ずきん・もんぺ・ゲートルの非常時服急増
1942(昭和17)年 3.- 神戸市生田区元町通1丁目234番地に神戸支店元町売店開設 3.- 京城帝国大学法文学部構内に京城支店売店開設 4.- 奉天市敷島区八幡町1番地に奉天インキ工場設立、工場長大屋部資治 6.1 日吉出張所を横浜支店へ移管	4.23 興亜電機工業を丸善電機工業と改称 5.26 丸善共済会を丸善報国会と改称 9.11 姫路市中二階町27番地に(株)姫路宝文館開設 9.30 九段寄宿舎新築(19.2.18廃止) 11.3 内務省情報局委嘱の書籍・文献蒐集のため石川実外国課長・上住菴を南方諸地域へ派遣 12.1 丸善洋物卸店資本金30万円に増資	1.1 連合国共同宣言に調印 1.28 日本出版貿易創業 4.- 日本出版文化協会全出版の発行承認制実施 5.13 企業整備令公布 5.26 日本文学報国会結成 6.5 ミッドウェー海戦 11.- 百貨店売場を縮小 12.28 日本出版文化協会用紙割当大幅減配を決定 - 新聞の統合行われ、日刊紙54となる
1943(昭和18)年 3.1 金沢末吉社長辞任、会長就任、荒川実社長選任 9.- 台北市榮町2丁目に台北出張所開設	2.25 専門図書館協会海外図書蒐集員として中村春太郎仙台支店長を欧州へ派遣(20.6.25帰国)	2.1 日本軍ガダルカナル島撤退 2.18 出版事業令公布 3.11 日本出版会創立、日本出

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
12.1 本邦刊行物外地配給を目的としてパタピアのゴルフ書店内にジャカルタ書籍店開設、後に木工場・紙工場・鉛筆工場を経営、店長佐久間庸 - 出版部出版用紙配給統制強化に対処して外部4出版社を統合	4.19 葛飾区青砥町1丁目195番地にアサヒ製図器(株)設立 4.20 姫路宝文館を姫路丸善と改称 6.- サイダー瓶・ビール瓶入りインキ売出す 7.27 荻村製本所を丸善製本所と改称 10.23 丸善時計電機工業・丸善電機工業・丸善計算機・京都第一製作所を合併し日本橋区江戸橋3丁目2番地に丸善精機工業(株)設立、資本金102万円、淀川製作所・京都製作所・西宮製作所・大阪製作所設置、社長司忠 12.- 「学鑑」「アナウンスメント」休刊	版文化協会解散 4.16 緊急物価対策要綱決定 7.1 東京都制施行 9.8 イタリア無条件降伏声明 9.13 蒋介石国民政府主席就任 10.21 学徒出陣壮行会举行 11.5 情報局出版事業整備要綱発表 11.22 カイロ会議開催 11.28 テヘラン会議開催
1944(昭和19)年		
1.- 横浜市中区太田町4丁目50番地に横浜支店店舗開設 2.8 川村善之助監査役辞任 2.18 福岡支店隣家の出火により類焼 3.27 福岡支店福岡市下新川端町28番地に仮営業所を設置 4.- 京城支店京城帝国大学内売店閉鎖 6.- 神戸支店強制疎開のため明石町事務所を元町売店裏へ移転 8.1 機構改革、総務・経理・洋書仕入・古書・営業の5部設置	3.6 新潟県西蒲原郡巻町大字巻乙12番地に丸善計算機巻工場設立、丸善精機工業に合併 4.1 職員の定年制制定、21.4.1より実施 9.8 山梨県東山梨郡塩山町に古書・洋書目録・重要書類疎開	1.26 強制疎開行われる 3.6 全国の新聞夕刊廃止 6.4 連合国ローマ占領 6.6 連合軍ノルマンジー上陸開始 6.19 マリアナ沖海戦 8.4 国民総武装決定 8.18 日本医学雑誌(株)(医学書院の前身)設立 8.23 学徒勤労令・女子挺身勤労令公布 8.24 連合軍バリ入城 10.24 レイテ沖海戦 11.24 B29 東京を爆撃
1945(昭和20)年		
2.28 金沢末吉会長辞任、相談役就任 3.3 鈴木仁一郎取締役辞任 3.10 東京大空襲のため本社周辺の別館・倉庫全焼 3.14 大阪支店被災、生野区社員宿舍に仮事務所設置 3.19 名古屋支店一部被災、付	1.24 日本橋区江戸橋3丁目2番地に丸善出版(株)設立、丸善の出版業務継承、資本金200万円、社長荒川実 5.12 全社員に待期命令を出す 5.25 丸善精機工業本社を新潟県西蒲原郡巻工場内に移転 6.8 丸善精機工業淀川・大阪両	2.4 米英ソヤルタ会談開催 3.6 国民勤労動員令公布 3.9~10 東京大空襲 3.17 硫黄島の日本軍全滅 4.1 米軍沖縄本島上陸 4.12 米国ルーズベルト大統領死去、副大統領トルーマン昇格 5.8 ドイツ無条件降伏

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
属別館全焼 3.21 取締役山崎民雄死去 4.1 台北出張所を台湾三省堂に譲渡 4.4 強制疎開のため第一生命保険相互会社京橋分館内に本社移転, 4.11 より営業開始 4.4 本店小売部新設 4.13 日暮里工場被災全焼, 原料倉庫のみ残る, インキ製造駒込工場で継続 4.- 大阪支店仮営業所を大阪市北区宗是町大阪ビル旧館4階に開設, 後に1階へ移転 5.24 本社建物(強制疎開のため空家)被災全焼 5.24 早稲田出張所・荏原工場被災全焼 5.29 横浜支店被災全焼, 6.5 日吉出張所内に仮営業所設置 5.- 三田出張所閉鎖 6.5 神戸支店被災全焼 6.19 福岡支店仮営業所被災全焼, 7.2 新大工町6番地に仮営業所設置 6.- 京城支店興南出張所閉鎖 7.9 仙台支店被災全焼, 本町通に仮事務所(8.30 本町売店, 12.27 荒町売店)設置 8.9 長崎出張所原爆により一部損傷 8.- 新京出張所ソ連軍・中国中央軍に接収され解散 8.~9. ジャカルタ書籍店を連合軍に引渡す 9.10 神戸支店廃止, 出張所へ降格(大阪支店管轄) 9.- 札幌支店米軍に接収される, 12.15 南一条西3丁目8番地の20に移転 9.- 京城支店管理権を朝鮮人	製作所被災全焼, 閉鎖 6.25 待命中社員のうち本社117名の再勤者発表 7.4 姫路丸善被災全焼 9.9 朝鮮丸善製品販売米軍に接収される 9.26 石川実海外課長・田中芳之 GHQ 訪問, 米国書輸入斡旋を要請 12.1 東京丸善製品販売新潟出張所設置 - 丸善精機工業京都製作所売却却	6.1 日本出版会用紙の重点集中特配制実施 7.17 ボツダム会談開催 8.6 広島に原子爆弾投下 8.8 ソ連対日宣戦布告 8.9 長崎に原子爆弾投下 8.15 日本無条件降伏, ボツダム宣言受諾, 第2次世界大戦終結 8.15 終戦の詔勅放送 8.30 連合国最高司令長官マッカーサー厚木に到着 9.2 日本降伏文書に調印 9.10 GHQ 言論及び新聞の自由に関する覚書発表, 検閲開始 10.10 日本出版協会創立 10.11 マッカーサー, 幣原首相と会談, 人権確保の五大改革・憲法改正を示唆 10.24 国際連合正式発足 11.1 (社)共同通信社・(株)時事通信社発足 11.2 日本社会党結成 11.6 財閥解体 11.9 日本自由党結成 11.23 角川書店創業 11.26 東京に CIE 図書館開館 12.1 全日本教員組合結成 12.9 GHQ 農地改革を指令 12.17 衆議院議員選挙法改正公布(婦人参政) 12.22 労働組合法公布 - アメリカで電子計算機 ENIAC 完成

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
社員裏込に委任 1946(昭和21)年 1. ~2. 奉天工場ソ連軍に接収される 3.25 村上英四郎監査役辞任 3.30 伊藤四良取締役辞任, 監査役選任 4. - 新潟県中蒲原郡小須戸町大字矢代田 1922 番地に矢代田工場新設, インキ製造, 工場長竹本武男 9.10 仙台市国分町 168 番地に仙台支店新築落成, 10.1 開店 9.22 福岡市上西町 18 番地に福岡支店新築落成, 23 日開店 10.1 葛飾区青砥町 1 丁目 195 番地に青戸工場設立, 万年筆製造, 工場長近藤正之 12. - 名古屋支店復旧工事成る	2. - 名古屋支店出店制度採用 3.26 会社運営民主化のため経営審議会設置を取締役会で決議 4.1 定年制実施, 男 55 歳, 女 50 歳 4.10 経営審議会第 1 回会議開催 8.15 終戦 1 周年に際し全社員に臨時酒肴料支給 8.28 海外出版物輸入準備委員会設置, 委員長八田庄治 11. - 処務規則案制定, 服務規定・執務規則・休日・休暇基準制定 11. - Mr. Carroll コリヤーズ社代表来訪	1.1 天皇人間宣言 1.4 軍国主義者の公職追放 1. - 「世界」「展望」創刊, 「改造」「中央公論」復刊 2.17 金融緊急措置令公布(預貯金封鎖) 3.3 物価統制令公布 4.15 日本自由出版協会設立 5.3 極東国際軍事裁判開廷 5.15 「リーダーズ・ダイジェスト」(日本語版)創刊 5.19 食糧メーデー 6.20 貿易等臨時措置令公布, 民間貿易正式に禁止 7.12 中国の全面的内戦開始 8.1 日本労働組合総同盟結成 8.16 経済団体連合会創立 8.21 海外出版物輸入同業会解散, 海外出版物輸入協会設立 9.10 外国郵便取扱開始 11.3 日本国憲法公布 11.16 内閣当用漢字表及現代かなづかい告示 11. - 自然科学書協会設立(会長荒川実)
1947(昭和22)年 1.29 機構改革, 本社に専務室・総務・業務・製造・調査・経理の 1 室 5 部設置 1.29 専務取締役設置, 司選選任 2.20 昭和別館再建完成 3.1 本店を昭和別館に移転, 小売部第一生命ビルに残す 4. - 本店小売部分離し東京支店新設, 支店長西土春次 5.1 支店職制改革, 東京(含神田支店・丸の内出張所)・大阪(含神戸出張所)・京都・横浜・福岡	2.5 雇員を書記補に, 備員を雇員に改称 3.11 丸善従業員組合結成 4. - 「ライフ」放出物資として初入荷 4.18 Mr. Bowker バブリッシャー・ウィークリー社長来日 8.25 従業員組合と団体協約調印, 団体協約第 6 条により経営協議会成立 10.10 八田庄治丸善洋物卸店社長就任, 金原金二丸善出版社社長就任	1.31 マッカーサー 2.1 ゼネストに対し中止命令 2.10 パリ平和条約調印 3.12 トルーマン・ドクトリン宣言 3.31 財政法・教育基本法・学校教育法公布 4.1 新学制による小学校・中学校発足 4.7 労働基準法公布 4.14 独占禁止法公布 4.20 第 1 回参議院議員選挙 5.3 日本国憲法施行

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
(含長崎出張所)・仙台・名古屋・札幌に各支店設置 8.1 株式公開、1株50円、資本金1千万円に増資 8.1 長崎出張所支店に昇格、支店長小林俊亮 10.1 神戸出張所本社管轄となる 10.10 荒川実会長就任、司忠社長選任、野口三郎常務取締役選任、八田庄治・小柳津宗吾・金原金二取締役辞任 10.20 専務室・調査部廃止、秘書部新設 10.20 本社各部・支店に次長職設置 12.5 本店木造二階建社屋新築落成、営業開始 12.5 東京支店日本橋へ移転、出店制採用、美術部開設 12.5 営業品目に眼鏡・薬品・時計・印刷部門を追加 1948(昭和23)年 3.15 中山良謙・山本治郎取締役選任、五十嵐清彦監査役選任、中村泰監査役退任 4.24 資本金2,500万円に増資 6.1 神田支店東京支店より独立、本社直轄となる、支店長上田憲治 7.16 大阪支店再建落成開店、大阪ビル仮営業所を大阪ビル売店として残す 9.10 営業品目に計量器の販売を追加 9.18 日暮里工場再建落成 10.1 化粧品部新設、化粧品及アテナ剃刀・替刃の製造・卸売 12.1 姫路市中二階町27番地に姫路支店開設、支店長松本勝二、姫路丸善解散	10.- 司社長海外出版物輸入協会理事長就任 11.25 大阪丸善製品販売・中部丸善製品販売・九州丸善製品販売を丸善貿易に合併、大阪・名古屋・福岡に出張所設置、資本金19万8千円、社長司忠 11.25 北海道丸善製品販売を東京丸善製品販売に合併、丸善商社と改称、新潟・札幌に出張所設置、資本金18万円、社長小柳津宗吾 12.5~14 「丸善美術部開設記念新作日本画展」 12.15~20 「泉会第1回洋画展覧会」[㊤] 12.- 「コリヤーズ」他外国雑誌入荷 2.20 従業員服務規定制定、3.1より実施 4.1 丸善商社資本金50万円に増資 4.10 丸善貿易資本金150万円に増資 4.- Mr.Jessup マグローヒル社代表来訪 4.30 丸善服装雑貨卸店を丸善洋物卸店に合併、新資本金48万円 5.24~29 「アテナ会第1回洋画展」 8.6 Miss B. A. Steel シュナイダー社代表来訪 8.10 丸善洋物卸店資本金100万円に増資 9.30 丸善商事解散、業務を化	6.5 マーシャル・プラン発表 8.4 最高裁判所発足 8.14 パキスタン独立 8.15 インド独立 8.15 制限付民間貿易再開 9.14 キャスリン台風関東地方を襲う 10.1 臨時国勢調査実施、総人口78,101,473人 10.26 改正刑法公布 11.17~23 戦後第1回読書週間開催 12.8 過度経済力集中排除法公布 12.22 改正民法公布 4.1 ベルリン封鎖始まる 4.1 新制高校・新制大学発足 6.5 国立国会図書館開館 6.23 昭和電工事件起る 7.31 政令201号公布 8.13 大韓民国樹立、大統領李承晩 8.- 米国エロア資金による対日物資供給開始 9.9 朝鮮民主主義人民共和国成立、首相金日成 10.8 地球・万年筆・クリーム・歯みがき等自由販売 11.12 極東国際軍事裁判所戦犯25被告に有罪判決 12.18 GHQ 経済安定9原則発表 - 海外出版物輸入協会を海外

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
化粧品部へ移譲 10.- 絹紡糸でレインコート・ズボンの縫製開始, 更科縫製加工所へ委託 11.1 丸善商社資本金 100 万円に増資 11.- Mr. レッドマン英国大使館情報教育部長英国書輸入を発表, 24.3.到着 秋頃「欧米図書雑誌見本展」(見本展示のみ) 1949(昭和24)年 1.18 日暮里工場操業開始, 駒込工場閉鎖 2.1 機構改革, 営業部・外国部・器械部・学鑑編集部新設, 業務部・東京支店廃止 3.15 中山良謙常務取締役選任, 井野礼二・西土春次・永井弥惣兵衛取締役選任 5.16 東京証券取引所に株式上場 8.1 学鑑編集部廃止, 宣伝部新設, 横浜支店出張所に降格, 営業部へ移管 9.5 金沢市下新町 30 番地に金沢出張員詰所新設 11.30 矢代田工場閉鎖 12.13 仙台支店新築落成, 15 日開店 12.20 資本金 6,000 万円に増資 12.31 化粧品部廃止 2.- ロイヤルタイプライター輸入再開(政府輸入)第 1 回 100 台入荷 3.1 永年勤続者第 1 回表彰式 3.22 アサヒ製図器解散 4.1 丸善共済会廃止, 丸善厚生会発足 4.1~6 「第 1 回英国書展覧会」 4.18 丸善洋物卸店資本金 200 万円に増資 4.22~30 「産業資料古書即売展」 5.31~6.11 「新刊フランス書展覧会」 8.- エロア資金による米国書(工業技術関係書)到着 10.3~15 「英国新刊書展覧会」 10.20~28 「ゲーテ生誕 200 年記念ゲーテ記念資料展」 10.12 「アナウンスメント」復刊 10.- 本店にライブラリー・モデルルーム新設, 学校図書館設備を開発 11.1~9 「新刊米国書展覧会」 12.5~10 「丸善特選洋品ユニクネス・ショー」 - マルゼンベルタイマー製造発売	出版物輸入同業組合と改称 - アロハシャツ, ロングスカート流行 3.7 ドッジ・プラン発表 3.29 日本出版配給(株)閉鎖機関に指定 4.4 団体等規正令公布 4.4 西側 12 カ国北大西洋条約(NATO)調印 4.25 1 ドル対 360 円の単一為替レート設定 5.24 新聞紙法・出版法廃止 5.25 通商産業省発足 7.5 下山事件起る 8.17 松川事件起る 8.26 シャウプ税制改革勧告案発表 9.7 ドイツ連邦共和国(西ドイツ)成立 9.- 日本出版販売・東京出版販売・日本教科図書販売創業 10.1 中華人民共和国成立 10.7 ドイツ民主共和国(東ドイツ)成立 11.3 湯川秀樹ノーベル賞受賞 12.1 外国為替・外国貿易管理法公布 12.20 重要物資統制撤廃指令発表

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1950(昭和25)年 2.3 器械部を機械部と改称 4.1 機構改革, 営業部廃止, 書籍部・文具部・洋品部新設 4.1 荒川実会長辞任, 相談役就任 8.1 製造部廃止, インキ部新設 12.5 金沢市石浦町53番地に金沢出張所開設, 所長柘植福太郎	- 京都支店地階に京都府立図書館河原町分館開設 31.9. 廃止 この年より外国雑誌・新聞の予約開始 1.1 化粧品部と横浜の丸善薬店合併, 横浜市南区南太田3丁目31番地に丸善化工(株)設立, 会長司忠, 社長和田耕平 5.1 丸善製本所解散 5.1 従業員組合機関誌(後の「蟻塔」)創刊 5.20 丸善出版資本金600万円に増資 8.- 駒込社員寮新築落成 9.13 丸善洋物卸店資本金300万円に増資 10.25~11.9 「1951年度海外雑誌新聞見本展示会」@ - バレー安全剃刀・替刃入荷 - モンロー計算機輸入再開, 第1回33台入荷	1.1 印刷用紙の配給・価格統制撤廃 1.1 民間貿易再開, 洋書輸入制限解除(除ソ連書) 1.7 千円札発行 2.27 全国学校図書館協議会創立 3.13 通産省ガリオア資金による米国書輸入許可発表 4.25 資産再評価法公布 4.30 図書館法公布 4.- 短期大学発足 5.10 商法改正公布 6.25 朝鮮戦争勃発 7.11 日本労働組合総評議会結成 7.28 レッドバージ始まる 8.9 輸入自動承認制度実施 - 特需景気起る
1951(昭和26)年 3.- 山本治郎常務取締役選任 5.1 常務取締役野口三郎死去 6.1 岡山市上之町50番地薬業会館内に岡山出張所(姫路支店管轄)開設 7.1 取締役会規則・役員職務規定制定 9.15 営業目的を百貨の陳列販売業, 度量衡器・計量器・測定器械・測定器械器具等の販売業, 煙草・医薬品等の販売業, 図書・雑誌の出版業, インキ・万年筆の製造業, 写真業・貸室業・飲食営業及び以上の商品の輸出入業及び以上に附帯する一切の業務に変更	1.31 丸善商社を丸善貿易に合併 1.- 「学鑑」復刊 3.23~31 「米英書普及版特選展覧会」 3.- 丸善精機工業西宮製作所売却 3.- 「米国二大出版社新刊陳列即売展」 4.26~5.2 「新刊独逸書展覧会」 5.- 竹山謙三郎著「木構造」日本建築学会賞受賞 6.23 丸善貿易を丸善製品販売(株)と改称, 資本金250万円, 会長司忠, 社長小柳津宗吾	1.25 「岩波現代叢書」刊行開始 5.8 チャタレー裁判開始 6.21 ユネスコ日本の加盟承認 9.1 民間放送開始 9.8 対日平和条約(ソ連・中国等を除く)・日米安全保障条約調印 10.25 日本航空国内線営業開始

社 内 事 項	国内・国外事項
9.18 本社第1期工事落成開店 1952(昭和27)年 1.21 資本金9千万円に増資 2.1 資本金1億5千万円に増資 2.1 店頭販売部・外国雑誌仕入部新設 10.- 神田支店閉鎖、業務を本社へ移譲 12.8 本社第2期工事落成、9日開店	7.- 「工芸ニュース」発行引受る(49.7.休刊) 7.- お仕立券付ワイシャツ売出す 9.1 千代田区神田淡路町 215番地に(株)丸新縫製加工所設立、資本金20万円、社長司忠 9.15 「丸善社史」発行 9.- 本社三階にパリスショップ、地下にレストランマキシム開店 12.- 「建築設計資料集成2集」良書ベストテン入選 - ユネスコ出版物日本総代理店となる 2.11~16 「米国百社推薦図書展」 3.3~8 「欧版日本古地図展」 3.25 初の洋書リプリント版“Textbook of Organic Chemistry”出版 4.8 ラジオ放送によるPR開始「丸善クラシック音楽の時間」文化放送P.M.7:00~7:15(6.24終了) 4.- 「英国マクミラン出版書籍即売展」 5.- 丸善洋物卸店資本金600万円に増資 5.- 抜山平一著「電磁気学」第2巻、執行岩根著「電気機械設計論」全3巻電気学会文献賞受賞 9.1 丸善出版資本金1千万円に増資 9.22~27 「第1回葬会展覧会」 Ⓔ 9.- 丸新縫製加工所資本金50万円に増資 12.8~20 「きりしたん版」を中
	1.8 プリジストン美術館開館 4.28 対日平和条約・日米安全保障条約発効 5.1 メーデー事件起る 5.10 CIE 図書館アメリカ文化センターと改称 5.- 日本図書館学会設立 7.19 戦後初のオリンピック参加 7.21 破壊活動防止法成立 7.23 エジプトにクーデター起る 9.- ソビエトの書籍バーター貿易により初入荷

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
心とした日本及び東西関係古文 献展覧会」 12.- 「建築設計資料集成 3 集」 良書ベストテン入選 1953(昭和 28)年 3.1 祝日休業廃止 3.16 営業目的中度量衡器の販売を削除，化粧品の販売を追加 3.16 金原金二取締役選任 3.24 金原金二常務取締役選任 3.27 大阪支店大阪ビル売店閉鎖 4.1 大阪市北区梅田町 47 番地新阪神ビル内に梅田出張所(大阪支店管轄)開設 4.30 丸善出版を合併，資本金 1 億 6 千万円に増資 5.1 出版部新設 7.1 神戸市生田区 元町通 1 丁目 63 番地に神戸出張所新築，支店に昇格，支店長中田正雄 8.1 資本金 3 億 5 千万円に増資 9.1 外国雑誌仕入部を外国雑誌部と改称 9.15 営業目的中酒類の販売を追加 10.- 堺市百舌鳥梅町 4 丁目 804 番地大阪府立大学百舌鳥学舎内に大阪支店売店開設 3.7 本社に医務室開設 3.30~4.15 「学鑑五十年展」 4.1 司社長吹米取引先訪問のため出発，6.26 帰国 5.11~16 「生誕 100 年記念ヴァン・ゴッホ展」 5.- OSS により戦後初めて外国製文具・洋品入荷 7.21~30 「ウォルト・ホイットマン文献展」 7.- 洋酒取扱許可される 8.26 丸善洋物卸店社屋(現第五丸善ビル)新築落成 9.21~26 「開国百年記念文献展」 9.28~10.3 「写真文化史展」 9.- インキ発売 75 周年記念販売行う 9.- 文化懇話会結成 11.3~14 「日仏文化協定締結記念日仏文化交流展」 11.17~28 「英国書展覧会」・「英米独仏瑞教科書展示会」 12.4 大阪市港区東田中町 1 丁目 131 番地所在の(株)佐藤金庫鋼鉄工業所に出資，経営参加 12.- 「化学便覧」良書ベストテン入選 12.- 丸善精機工業資本金 200 万円に増資	1.- 国会図書館マイクロ撮影機・リーダー完成 2.1 テレビ本放送開始 3.5 スターリン死去，株価大暴落 5.12 日仏文化協定調印 5.29 英国登山隊エベレスト登頂 6.2 英国エリザベス女王戴冠式挙行 7.27 朝鮮休戦協定調印 8.7 スト権規制法成立 8.8 学校図書館法公布 8.25 筑摩書房「現代日本文学全集」刊行開始 - 全集もののブームとなる
1954(昭和 29)年 1.1 本店に本の図書館開設，館長中村春太郎，2.8 公開 3.25 吉田秀雄・伊達研三・渡辺英夫・佐藤五夫取締役選任，田中辰治郎監査役選任，伊藤四良 2.15~20 「サマセット・モーム作品展」 2.22~3.6 「ガリマール社出版書展示即売会」 3.15 本店屋上にゴルフフェーズ	3.1 第五福竜丸ビキニ環礁で放射能灰をうける 3.8 米国と MSA 協定調印 6.8 改正警察法公布 6.9 防衛庁設置法・自衛隊法公

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
監査役辞任 4.1 外国部を洋書仕入部と改称 5.1 広島市鉄砲町145番地寿屋ビル2階に広島出張所(大阪支店管轄)開設, 所長三宅実 6.22 札幌支店改築落成, 28.12.1〜営業開始 6.25 中山良謙常務取締役辞任, 取締役就任 8.1 岡山出張所姫路支店より独立, 支店扱いとなる, 出張所長松本勝二 8.1 姫路支店・長崎支店出張所へ降格 9.1 輸出部新設 10.15 横浜出張所閉鎖 11.18 渋谷東横百貨店6階に丸善東横店開設(48.1.廃止)	センター開場 5.- 丸善洋物卸店資本金1,200万円に増資 6.7~12 「東西ドイツ図書展」 7.9~17 「エベレスト写真展」 8.8~18 札幌支店「回想の有島武郎展」 8.- 丸善精機工業資本金400万円に増資 9.- 丸新縫製加工所資本金100万円に増資 10.25~30 「オックスフォード出版部代表図書展示会」 12.13~18 「洋学ことはじめ展」 12.- 「化学便覧」良書ベストテン入選	布 6.24 日本ECAFE正式加盟 7.1 彰国社「建築学大系」刊行開始 7.21 ジュネーブ協定調印 9.6 SEATO 創設会議開催 9.26 青函連絡船洞爺丸沈没 10.10 光文社「カッパブックス」刊行開始 - 電気洗濯機普及
1955(昭和30)年 1.11 インキ部廃止, 業務を日暮里工場へ移管 2.10 新宿伊勢丹百貨店6階に丸善伊勢丹店開設 5.20 中山良謙取締役辞任 5.- 千代田区神田淡路町2丁目5番地の3に淡路町ビル新築落成 1956(昭和31)年 3.24 井野礼二・永井弥惣兵衛・吉田秀雄常務取締役選任, 上田	4.25~30 「欧米医学書展」㊤ 5.1 丸善健康保険組合設立 6.1~11 「フランス新刊書展示即売会」 6.- テレビによるPR開始 9.- アテナインキのPR映画「僕はインキです」2巻完成 10.31~11.5 「第2回オックスフォード大学出版部代表図書展示会」 11.- ワンダーインキ(油性マーカーペン)発売 - 「マルゼン・デシマルクラシフィケーション・テーブル」完成 4.9~14 「原子力平和利用資料展」	3.15 平凡社「世界大百科事典」32巻刊行開始 4.18 アジア・アフリカ会議開催 5.8 砂川基地闘争始まる 7.18 米英仏ソ4国巨頭会談開催 8.7 トランジスターラジオ発売 8.8 第1回原子力平和利用国際会議開催 9.19 原水爆禁止日本協議会(原水協)結成 11.15 自由民主党結成 12.19 原子力基本法・原子力委員会設置法公布 - 神武景気, 家庭電化時代始まる 1.28 万国著作権条約公布 1.30 日本雑誌協会創立

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
憲治・三次健太郎・飯泉新吾取締役選任 6.- 仙台支店増築落成 7.3 洋書管理部新設 7.6 常務取締役山本治郎死去 8.28 相談役金沢末吉死去 11.1 Cambridge House, Room No.502 B, No.333, West 86 Street New York, N. Y., U. S. A. にニューヨーク出張所開設 12.1 資本金5億 2,500万円に増資 12.1 名古屋名鉄百貨店5階に名鉄店開設(36.5.廃止)	5.7 司社長アメリカ市場視察のため出発, 6.11 帰国 5.26~30 ニューヨーク出張所「第1回国際書籍展示会」(於ワシントン)に参加出品 6.11~16 「フランス科学技術書展覧会」 6.25~7.8 「初期山岳関係図書展」 8.- 丸善精機工業資本金1千万円に増資 9.- 丸善洋物卸店決算期を年1回7月末日に変更 10.29~11.3 「Everyman's Library 発刊50年記念展示会」 11.5~10 「新しい科学技術書展」	2.19 「週刊新潮」創刊, 週刊誌ブーム起る 2.24 スターリン批判起る 3.1 日本原子力産業会議設立 3.16 出版物輸出同業会結成 3.- 富士写真フィルム国産初の本格的電子計算機完成 4.1 医薬分業制度実施 5.9 日本登山隊マナスル初登頂 5.23 百貨店法公布 10.19 日ソ国交回復に関する共同宣言調印 10.23 ハンガリー事件起る 10.29 スエズ戦争始まる 11.1 スエズ運河封鎖 11.8 南極観測船宗谷出港 12.18 日本国連に加盟
1957(昭和32)年 1.- 淡路町ビル増築落成 7.3 中央区江戸橋3丁目3番地に別館(現第四丸善ビル)新築落成 7.- 日暮里工場改築落成 11.30 神戸支店増築落成 12.20 福岡支店改築落成 12.- ニューヨーク出張所 303 Fifth Avenue, 16, New York, N. Y. に移転	4.5 司社長欧米各国の商況視察及び ICC 総会出席のため出発, 6.10 帰国 4.15~20 「海外ファッション雑誌見本展示会」 4.- 牧隆泰著「農業水利造構学」第6回農業土木学会賞受賞 6.24~29 「中近東関係洋書展覧会」 7.- ゴルフクラブ New Model MARUZEN 571 発売 7.7 札幌支店石炭手当値上げ要求のため時限スト(9:30~12:30)決行(戦後最初) 9.11~28 「ドイツ新刊書籍展」 10.21~26 「オックスフォード大学出版書展示会」 11.1~7 「マグロー・ヒル社新刊書展示即売会」 11.8~14 「東南アジア・中南米関係洋書展」 11.25~30 「ケンブリッジ大学	1.10 有斐閣「法律学全集」刊行開始 3.25 欧州経済共同市場(EEC)条約調印 3.29 日本書籍出版協会創立 4.9 スエズ運河再開 5.6 岩波書店「日本古典文学大系」刊行開始 8.16 日本科学技術情報センター設立 9.2 第29回国際ペン大会東京で開催 10.4 ソ連人工衛星スプートニク1号打上げ成功 - なべ底不況

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1958(昭和33)年 3.4 伊達研三取締役辞任 8.1 金沢出張所名古屋支店へ移管 9.5 書籍部を書籍販売部と改称 9.20 吉田秀雄常務取締役辞任、取締役就任 12.1 洋書管理部を洋書仕入部に統合、店頭販売部廃止、和書部新設	出版書展示会」 12.13~17 「海外複製名画即売展」[㊤] 3.1 「丸善ライブラリー・ニュース」創刊 3.24~29 「英国新刊書展覧会」 5.18 永井弥惣兵衛機械部長事務機械の現況視察のため渡米 5.19~24 「英国著名文人自筆展」 5.- 丸善洋物卸店資本金1,800万円に増資 6.2~10 「フランス新刊書展示即売会」 8.6~17 札幌支店「内村鑑三・新渡戸稲造展」 9.- 丸善製品販売福岡・札幌出張所閉鎖、出張員詰所設置 10.- 丸善従業員組合を丸善労働組合に改組 10.- 季刊文芸誌「聲」創刊(36.1.終刊) 11.24~29 「英国理工書新刊即売展」 12.- 佐藤金庫鋼鉄工業所資本金1千万円に増資	5.10 長崎国旗事件により日中貿易全面停止 5.16 NHK テレビ受信契約数100万突破 7.25 日本貿易振興会設立 10.5 フランス第5共和制発足 10.- 警職法改正反対闘争起る 11.27 皇太子明仁と正田美智子の婚約発表 12.1 1万円札発行 12.23 東京タワー完成
1959(昭和34)年 2.6 長崎出張所一部類焼 2.28 五十嵐清彦監査役辞任 3.1 西土春次取締役辞任 3.- 本店三階にクラフトセンター・ジャパン開設 9.14 人事部新設	2.- アテナユースインキ発売 4.6 司社長国際商業会議所総会出席及び取引先訪問のため渡米、5.4 帰国 4.27~5.2 「新しいマネジメントのための経営関係書展」 4.- アテナホームシェルフ発売 5.- LGP-30電子計算機輸入販売 6.1~6 「ヒマラヤ文献展」 7.1 リプリント委員会設置 7.23 健康保険組合六甲山保養	1.1 カストロによるキューバ革命起る 1.20 読売新聞社「日本の歴史」刊行開始、以後筑摩書房「世界の歴史」、中央公論「世界の歴史」刊行、歴史への関心拡まる 3.15 「朝日ジャーナル」創刊 4.10 皇太子成婚式挙行 4.15 最低賃金法公布 6.10 国立西洋美術館開館(松方コレクション収蔵) 9.26 伊勢湾台風中部・関東地方を襲い被害甚大

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
所「山の家」開設 8.16 第1回全社野球大会開催 9.25～10.1 「欧米テキストブック展」 11.17～21 「サマセット・モーム展覧会」(17日モーム来場) 12.16～22 「今日のクラフト展」^㉔ 12.- 丸善精機工業資本金1,500万円に増資 - シンプロコビー発売 - 洋書リプリント版を“Maruzen Asian Edition”と呼称 1960(昭和35)年 1.20 吉田秀雄取締役辞任，監査役選任 3.21 田中辰治郎監査役辞任 4.- 仙台市東一番丁11番地に仙台支店東一番丁売店開設 7.1 資本金7億8,750万円に増資 10.17 中央区日本橋3丁目9番地に第2丸善ビル新築落成 10.22 第2丸善ビル地下1階に丸善ビジネスマシンセンター開設 10.22 機械部を事務機械部と改称 12.28 秘書部廃止，社長室新設	所「山の家」開設 8.16 第1回全社野球大会開催 9.25～10.1 「欧米テキストブック展」 11.17～21 「サマセット・モーム展覧会」(17日モーム来場) 12.16～22 「今日のクラフト展」^㉔ 12.- 丸善精機工業資本金1,500万円に増資 - シンプロコビー発売 - 洋書リプリント版を“Maruzen Asian Edition”と呼称 1.20 クラフトセンター・ジャパン財団法人の認可を受ける 1.25 洋書仕入部内に日本モーム協会設立(会長中野好夫) 4.11～16 「大衆社会と新しい政治洋書展」 5.16～21 「世界デザイン書展」 10.10～15 「世界美術書展」 10.27～11.16 「創刊25周年記念—ベンギン文庫まつり」 10.- クラフトセンター・ジャパン機関誌「クラフト」創刊 11.- ジレットホルダー(替刃6枚付)輸入自由化 12.- 日本モーム協会誌“Cap Ferrat”発行	9.30 中ソ対立激化 11.8 フォノ・シート「KODAMA」創刊 - 出版社の週刊誌続々と創刊 - 岩戸景気 1.12 貿易為替自由化促進閣僚会議開催 1.24 民主社会党結成(日本社会党分裂) 1.25 三池労組無期限スト突入 4.18 韓国に李承晩大統領退陣要求のデモ起る 4.～6. 新安保条約阻止のため連日国会周辺デモ 5.11～30 世界デザイン会議東京で開催 6.10 ハガチー事件起る 6.23 新安保条約批准書交換，発効 9.10 カラーテレビ本放送開始 10.12 浅沼社会党委員長演説中刺殺される 12.20 全国共通図書券発売 12.27 国民所得倍增計画(高度成長政策)決定 - インスタントラーメン，インスタントコーヒー等続々発売(インスタント時代)
1961(昭和36)年 3.25 金原金二取締役退任，監査役選任 4.4 広島市草屋町30番地に広	3.6～11 「豪華本・特装本・限定版の会」^㉔ 3.20 社内報「丸善ニュース」創	2.1 「風流夢譚」事件で中央公論社嶋中社長邸震われる 4.19 駐日米大使ライシャワー

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
島出張所新築落成 4.7 広島出張所支店に昇格、支店長西口一美 8.1 青戸工場を日暮里工場に吸収 8.1 日暮里工場内に丸善研究所開設 9.21 営業目的に工業薬品の製造販売・古物売買業を追加	刊(41.12.「丸善社内報」と改題) 3.- 金原金二丸善洋物卸店社長就任 4.10~15 「現代フランス社会科学書展」 4.- 国民の祝日休日扱いとなる(店頭は営業) 6.12~14 「ホセ・リサール博士生誕100年記念関係書籍展」 7.- 広島支店キャッチフレーズ募集, 1等「文化の先端広島丸善」 11.13~15 「全米ブックジャケットコンペティション入選作品展」 11.- ジレット安全剃刀・ペーパーメイトボールペンの日本総代理店となる	着任 5.16 韓国に軍事クーデター起る 6.12 農業基本法公布 11.1 国立国会図書館新築開館 12.21 中央公論社「思想の科学」問題起る - ソ連宇宙船ヴォストーク1号地球一周飛行に成功 - シームレス・ストックキング流行
1962(昭和37)年		
3.24 草間省二良・石井茂夫取締役選任, 佐藤五夫取締役辞任 6.14 本社通用口に警備室開設 9.22 三次健太郎取締役辞任, 監査役選任, 吉田秀雄監査役辞任 10.1 ジレット部新設	2.- 丸善洋物卸店資本金2,700万円に増資 4.15 司社長取引先訪問のため渡米, 5.2 帰国 4.16~21 「電子計算機文献展示会」 5.14 品川区大井坂下町所在(株)第一鋼鉄工業所に出資, 経営参加 5.- マルゼン・フォトコピー発売 8.- 本店一階にマープルコーナー開設(工芸品展示) 8.- 社内章制定 10.8~20 「ブレアード版展示即売会」 10.8~11 「明治維新をめぐる日英関係資料展」 10.9 司社長訪英経済使節団々員として渡欧, 11.12 帰国 11.8~13 「料理西から東から」 11.22~12.4 「アジア関係書展	3.18 仏・アルジェリア臨時政府エビアン協定調印, アルジェリア民族解放戦争終結 4.27 「岩波講座日本歴史」刊行開始 5.3 常磐線三河島事故起る 8.12 堀江謙一小型ヨットによる太平洋横断に成功 9.12 原子力研究所国産第1号炉臨界に達する 10.22 キューバ危機起る

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1963(昭和38)年 1.13 名古屋支店増改築のため事務所を中区南呉服町2丁目9番地に移転, 8.26 売場を中区大津町4丁目23番地ライオンビル1~4階に移転 2.1 資本金12億円に増資 3.26 飯泉新吾常務取締役選任, 疋田宇三郎監査役選任, 金原金二監査役退任 9.20 小林義正・中田正雄取締役選任	示即売」 11.- ジレット替刃輸入自由化 12.1 本社員食堂完成 12.- 司社長藍綬褒章受章 - 長野県下高井郡山内町に健康保険組合「志賀高原山の家」開設 1.- 丸善製品販売資本金1千万円に増資 2.8 司社長文具工業連盟主催東南アジア海外見本市視察のため出発, 2.18 帰国 2.- 輸出部文具工業連盟主催東南アジア海外見本市に出品 4.1~5.31 「第1回ローヤルゴールデンセール」 4.- 丸善洋物卸店ジレット安全剃刀の卸売開始 10.5 「学鑑」創刊60周年記念号発行 10.29 葛飾区青戸町1丁目195番地に青戸社員寮(家族寮・单身寮)新築落成 11.2~18 「せかいの絵本展示即売会」◎	3.20 鹿島研究所出版会創業 4.1 NHK学園設立 6.5 関西電力黒部川第四発電所完成 7.16 建築基準法改正公布(建築物の高さ制限緩和) 7.20 中小企業基本法公布 8.5 米英ソ部分的核実験停止条約調印 11.9 横須賀線鶴見事故起る 11.9 三池三川鉱でガス爆発起る 11.22 ケネディ米大統領暗殺される
1964(昭和39)年 2.29 姫路出張所改築落成, 3.12 開店 3.31 金沢出張所新築落成, 4.22 開店 8.7 相談役荒川実死去 9.21 中央区日本橋3丁目16番地に第3丸善ビル新築落成	3.17 広島市佐伯郡五日市町に広島社員寮新築落成 4.6~11 「シェイクスピア文献展示即売会」 4.13~18 「第1回七人会展」◎ 6.- 東京オリンピック協賛IGS(国際親善店)指定店となる 6.- アテナサインペン発売(青・黒・赤3色) 6.- 広島支店「青い目の習作展」 7.27~30 「英国印刷文化をつづる古版展」 8.26~31 「ソビエト自然科学	4.1 日本 IMF 8 条国に移行 4.8~5.17 「ミロのビーナス」特別公開 4.28 日本 OECD に加盟 4.28 第1回生存者叙勲発表 6.16 新潟地震起る 8.2 トンキン湾事件起る 10.1 東海道新幹線開業 10.10~24 第18回オリンピック東京大会開催 10.15 ソ連フルシチョフ首相の解任を発表 11.17 公明党結成

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
図書雑誌展」 10.- ローヤルタイプライター、モンロー計算機の輸入自由化 12.23 司社長仏国芸術文学勲章受勲 1965(昭和40)年 2.- 独立採算制実施 9.22 疋田宇三郎監査役辞任、取締役選任、井野礼二常務取締役退任、監査役選任 9.30 名古屋市中区栄町3丁目2番地に名古屋支店新築落成、丸善名古屋ビルと呼称、10.6 開店 3.- 超小型電子計算機「ロイマック-201」発売 4.26~30 『相模湾産蟹類』刊行記念資料展」 5.14 司社長文具工業連盟主催ロスアンゼルス、ロンドン両見本市視察及び取引先訪問のため出発、6.16 帰国 5.- 司社長勲二等旭日重光章受勲 6.7~12 『西鶴』刊行記念資料展」 9.13~24 「英国のニュートンとその生活展」 9.13~24 「英国私家版本特別陳列」 9.17~10.2 「コロネーション・バイブル特別展観」 9.29 英国アレキサンドラ王女夫妻来店 10.4~9 「第1回ソ連学術図書雑誌展」㊟ 10.6~11.2 名古屋支店「第1回司会洋画展」㊟ 11.29~12.4 「'65~'66 Modern Publicity 展」	2.7 米国北ベトナムを爆撃、北爆開始 2.10 筑摩書房「明治文学全集」刊行開始 5.28 政府山一証券へ特別融資 6.12 家永教科書裁判 6.22 日韓基本条約調印 8.3 松代群発地震起る 10.21 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞 11.19 戦後最初の国債発行決定
1966(昭和41)年 9.1 外商部新設 10.30 資本金18億円に増資 1.4~8 「第1回世界絵本作家原画展」㊟ 3.21~26 「U.S.A. in Focus 洋書を通じて観た最新のアメリカ事情」 4.4~9 「欧米稀観書展示即売会」	1.18 早稲田大学授業料値上反対闘争紛争化 2.4 全日空機東京湾に墜落、全員(出版関係者24名)死亡 3.5 BOAC 機富士山付近で空中分解し墜落、全員死亡 9.20 帝国劇場新築開場

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1967(昭和42)年 3.20 富士銀行本店内に売店開設 8.10 外国雑誌部廃止，業務を洋書仕入部・書籍販売部に統合 8.28 京都支店新築落成開店 11.1 横浜高島屋に洋書売場開設(50.7.廃止) 12.10 札幌支店増改築落成，11日開店	4.18～23 「世界の百科事典展示会」 5.30～6.4 「海外地図即売展」 6.- 国産電子計算機富士通FACOM-230-10 販売開始 9.- サルトル，ヴォーヴォワール来店 10.3～8 「西洋漫画本即売展」 10.10～15 「ドイツ新刊書即売展」 - 和書売場に新刊書コーナー新設 5.29～6.3 「世界の山岳地図と山の本即売展」 - 丸善製品販売資本金1,500万円に増資	11.1 国立劇場新築開場 4.11 日本近代文学館開館 6.5 中東戦争始まる 6.6 資本取引自由化基本方針決定 6.- 自動車保有台数1,000万突破 10.20 吉田茂死去，10.31 戦後初の国葬 12.10 都電銀座線廃止 - ミニスカート流行 - 明治百年記念出版盛況
1968(昭和43)年 3.1 企画部新設，書籍販売部・洋書仕入部・和書部を統合し書籍部新設 3.1 松山市一番町1丁目10番12号に松山営業所開設 3.18 株式信用銘柄扱となる 3.25 中田正雄常務取締役選任，小林俊亮・桜井喜代志取締役選任，草間省二良取締役辞任 6.5 ジレット部廃止 8.1 丸善製品販売・丸善洋物卸店を吸収合併，文具製販部・洋品卸部新設，文具部を文具小売部と改称 8.10 池袋芳林堂書店内に丸善洋書コーナー開設	2.29 H. マクミラン元英国首相来店 7.- オーバーヘッドプロジェクター「マルゼン OHP-101」発売 9.16～25 「創業100年記念協賛世界美術書展」 10.21～26 「フラワーデザインの本即売展」 10.28～11.9 「明治100年記念洋書100年展」 12.1 第一鋼鉄工業所丸善化工を吸収合併，資本金2,250万円に増資	4.12 超高層建築霞が関ビル完成 5.6 バリ学生騒動起る，ゼネストに拡大，デモ激化 5.10 米・北ベトナム和平会談開幕 5.16 十勝沖地震起る 5.27 日本大学紛争起る，以後各大学紛争続発 6.26 小笠原諸島日本へ返還 8.7 札幌医大日本初の心臓移植手術行う 10.17 川端康成ノーベル文学賞受賞 10.23 明治百年記念式典挙行 12.10 三億円強奪事件起る

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
12.10 広島支店増築落成 1969(昭和44)年 4.25 大丸デパート東京店に丸善洋書コーナー開設(50.5.廃止) 6.1 教材部新設 6.4 大田区平和島5丁目7番地に丸善配送センター新築落成 9.25 上田憲治常務取締役選任, 永井弥惣兵衛常務取締役選任 1970(昭和45年) 3.3 港区芝浜松町3丁目5番地世界貿易センタービル3階に浜松町店開店 9.25 飯泉新吾専務取締役選任 9.30 疋田宇三郎取締役退任 9.30 丸の内出張所を丸の内店と改称	4.28 沖縄デー, デモ隊警官隊と衝突, 交通機関混乱 7.21 米国アポロ11号月面着陸成功, 人類初めて月面に立つ 9.3 ホー・チ・ミン北ベトナム大統領死去 10.21 国際反戦デー, 首都騒然 11.21 沖縄返還に付日米共同声明発表 2.11 初の国産衛星「おおすみ」打上げ成功 3.14 大阪千里丘陵に於て日本万国博覧会(EXPO'70)開会(9.15閉幕) 6.22 日米安保条約自動延長 11.26 三島由紀夫割腹自殺

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1971(昭和46)年 5.6 文京区本郷7丁目3番1号東京大学安田講堂地下生協売店内に東大生協丸善洋書コーナー開設 8.5 横浜市中区翁町1丁目4番地の16号浜吉ビル2階に横浜営業所(書籍部所管)を開設 9.25 司忠取締役会長選任, 飯泉新吾社長選任, 小林義正取締役退任, 監査役選任, 井野礼二監査役退任 10.5 書籍部を書籍営業本部と改称, 仕入部・販売部を置く 12.20 大阪府茨木市大字郡386番地に丸善配送センター(茨木)を開設	展」㊤ 2.15～20 「ビュッフェ・リトグラフ展」 3.15～20 「欧米稀観書展」㊤ 3.22～26 「島崎藤村生誕100年記念夜明け前文献展」 7.5～10 「丸善教育メディアショウ」 7.19～24 「ケインズ全集刊行記念資料展」 9.6～11 「第1回一陽会小品展」㊤ 9.27～10.2 「『相模湾産貝類』刊行記念資料展」 12.6～11 「第1回光風会珠玉小品展」㊤	8.15 米国ドル防衛策発表(ドル・ショック) 8.28 為替自由化, 円切上げ, 基準レート1ドル対308円に決定 10.25 中国の国連加入成る
1972(昭和47)年 3.25 宮生一夫取締役選任, 渡辺英夫・小林俊亮取締役退任 6.5 沖縄県那覇市泉崎1-10-3琉球新報ビル4階に沖縄出張所開設(書籍営業本部所管) 6.8 静岡市東鷹匠町5番24号静岡イーストホークビル1階に静岡営業所開設(名古屋支店所管) 9.25 関正文・海老原熊雄・金沢康雄取締役選任, 石井茂夫取締役退任, 監査役選任, 三次健太郎監査役退任 9.25 営業目的に電子精密機器・視聴覚機器の製造, 電子精密機器・銅製家具・屋内造作等の設置に伴う工事請負業, 電子精密機器・事務用機器・視聴覚機器・銅製家具等動産の賃貸業を追加 11.21 ニューヨーク出張所を改組, 現地法人 Maruzen International Co., Ltd. 設立,	2.28～3.4 「島田謹介『四季』出版記念写真展」 2- ピエール・カルダンデザイン肌着発売 3.20～25 「二紀会15人展」㊤ 3- 教育用コンピュータ FACOM mate シリーズ販売元として発売 4.17～22 「第1回世界のマイクロ文献展」 6.19～24 「池田満寿夫水彩画とリトグラフ展」 8.7～12 「沖縄文献展」 9.18～23 「ノーマン・ロックウェル展」 9.25 丸善精機工業司会会長就任, 飯泉新吾社長選任 9- エア・カーゴサービス開始 9- O. W. L. ゴルフクラブ発売	2.3 札幌冬季オリンピック開幕(13日閉会) 3.26 飛鳥高松塚古墳壁画発見 5.15 沖縄復帰成る 9.25 田中角栄首相訪中 9.29 日中国交樹立 12.29 米国の週刊誌「LIFE」終刊

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
資本金 50,000 ドル、営業目的 書籍・雑誌・文具・事務用機器・視 聴覚機器・洋品雑貨の輸出入・小 売・卸売、社長飯泉新吾、取締 役桜井喜代志(ニューヨーク出 張所は 48.4 月末日を以って閉 鎖)	9.- マルゼン・プログラムタ イマー発売 11.27~12.2 「日本北辺古地図 展」 12.24~30 「年末洋書そと 市」
12.15 鹿児島市西田 1 丁目 6 番 5 号山之内ビル 2 階に鹿児島 営業所開設	
1973(昭和 48)年	
1.1 本店中央区日本橋 2 丁目 3 番 10 号に住居表示変更	1.9 日銀金融引締策決定
1.1 梅田出張所を梅田店、長崎 出張所を長崎営業所、仙台一番 町売店を仙台一番町店に各々改 称	1.28 ベトナム和平成立
1.20 旭川市宮下通 8 丁目左 1962 の 1 アサヒビル 4 階に旭川 営業所開設	2.14 円変動相場制移行
2.15 岡山出張所支店に昇格、 支店長中村幹男	8.8 金大中事件起る
4.1 輸出部を貿易部と改称	9.25 筑波大学法成立
8.1 神田駿河台 2 丁目 8 番瀬 川ビル内にお茶の水店開設	10.6 第四次中東戦争起る、石 油危機、狂乱物価
9.1 資本金 23 億 8 千万円に増 資	11.- 江崎玲於奈ノーベル賞受 賞
9.10 配送センター新設	
9.25 司忠取締役会長退任、相 談役就任、大桑稔秀取締役退任、 司忠行監査役退任、小林義正監 査役退任	
10.1 大阪支店増改築工事のた め東区谷町 5-27 東エビルディン グ内に仮営業所設置	
10.5 書籍営業本部に本部室設 置	
	1.9 アテナ透明マーカー発売
	2.26~3.3 「第 1 回東光会 22 人 展」 [㊤]
	4.9~14 「第 1 回あしの会展」 [㊤]
	4.- 汎用投影装置「MUP-101」 発売
	4.- マルゼン・コピーペンダー 発売
	5.14~19 「'73 世界のファッ ション・インテリア誌展」 [㊤]
	6.4~9 「シャガールのアフィ シュ展」
	7.23~28 「クラフトセンター・ ジャパン 第 1 回日常茶飯事展」 [㊤]
	7.26 第一鋼鉄工業所飯泉新吾 社長選任
	8.20~25 「島崎藤村没後 30 年 によせて藤村における旅資料 展」
	9.- 第 60 回神宮式年遷宮記念 出版「大神宮故事類纂」(マイク ロフィルム版)制作発売
	10.15~19 「EC 加盟 7 ヶ国ヨ ーロッパ美術書展」 [㊤]
	10.25~31 「宮田雅之きりえ 展」
	11.26~12.1 「世界のジグソー パズル展」

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
1974(昭和49)年 2.1 資本金24億9,900万円に増資 3.25 桜井喜代志常務取締役退任, 上田憲治常務取締役退任 5.10 土浦市田中2丁目1番1号コービル内に筑波支店開設, 支店長下岡義昌 8.1 文具製販部・事務機械部卸機構を統合し製販部を設置, 文具小売部を文具部と改称 9.9 八王子市三崎町4番11号トーネンビル5階に八王子営業所開設 9.10 沖縄出張所を福岡支店に移管 9.28 株主配当年14%に減配 9.28 横井俊次監査役退任, 石井茂夫監査役退任 10.1 書籍営業本部に卸部新設	12.10~15 「第1回二科会会員展」^㉔ 12.24~29 「近代登山の先駆者たち小島烏水・木暮理太郎・岡野金次郎生誕100年記念展」 12.- 「学鑑」創刊70周年記念「私の辞書」発行 1.7~12 「第1回漫画家の絵本の会」^㉔ 1.16~19 「年始め洋書そろど市」^㉔ 4.22~27 「Academic Press学術書展」 5.21 筑波学徒資金財団書籍部業務を受託, 筑波大学内売店運営を図る 5.23~29 「海外地図即売展」^㉔ 6.10~14 「熊谷守一著『茂吉秀歌』展」 6.24~29 「風間寛画集『女三十態』刊行記念原画展」 9.17~21 「Prentice-Hall 社展」 11.30 佐藤金庫鋼鉄工業所飯泉新吾社長退任 12.16~21 「江戸千代紙とおもちゃ絵の会」	8.8 ニクソン米大統領ウォーターゲート事件により辞任 10.1 商法改正 10.9 佐藤栄作ノーベル平和賞受賞
1975(昭和50)年 3.17 わが国経済構造の基盤変革に対応し, 企業体質を強化転換するため, 本社に企業体質強化本部新設(本部長飯泉新吾社長, 副本部長海老原雄雄取締役, 大桑稔秀取締役), 企画管理部(企業体質強化本部事務局)新設 3.27 社長室廃止, 秘書室・調査室新設 3.27 商法改正により決算期を年1回(7月31日)に変更 3.27 江口武美取締役退任, 中	1.20~25 「美しい本展示即売会」 1.27~31 「前川千帆版画遺作展」 3.3~8 「恩地孝四郎版画展」 3.10~14 「『江戸火消錦絵集』刊行記念原画と資料展」 4.21~26 「池順鐸作陶展」 4.- ブック・ディテクションシステム販売 4.- アテナサインペン・ボールド発売	3.10 新幹線岡山博多間開通 5.7 英国エリザベス女王来日 6.5 スエズ運河8年ぶり再開 7.20 沖縄国際海洋博開幕(51.1.18閉幕)

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
田正雄取締役退任、監査役退任 6.28 大阪丸善ビル竣工 8.1 資本金 26 億 2,395 万円に増資 8.1 鹿児島営業所鹿児島市新屋敷町 16 番 301 号に移転 10.20 盛岡市内丸 19 番-1 岩手医科大学図書館内に岩手医科大学売店開設 10.30 福田忠取締役退任、桜井喜代志常務取締役退任、宮生一夫取締役退任 11.13 茨木配送センター内に関西情報センター開設	5.6~10 「英国二大文庫ベンギン・バン即売展」 6.23~28 「関野準一郎版画東海道五十三次展」 7.21~26 「レオナルド・ダ・ヴィンチマドリッド手稿日本版完成記念マドリッド手稿資料展」 9.- 海島綿肌着発売 12.8~18 「シーボルトと日本『日本』復刻版刊行記念資料展」	
1976(昭和51)年		
1.1 茨木配送センター茨木市郡 2 丁目 13 番 14 号に住居表示変更 4.1 事務機械部を電子計算機販売部に改称 4.1 支店機構改革、名古屋支店に総務部・仕入開発部・販売部・店頭部新設 4.14 盛岡市大通り 2 丁目 2 番 15 さわやビル 5 階に盛岡営業所開設 8.31 大桑稔秀取締役辞任 9.1 本社機構改革、小売販売担当の東京本店を設け、店長室販売第一部・販売第二部・販売第三部・販売第四部・販売第五部・外雑予約センター・店頭部を置く 書籍営業本部仕入部・文具部・教材部・洋品部の各仕入機構及び書籍営業本部本部室・販売部の一部・電子計算機販売部の一部並びに宣伝部を統合し開発本部・仕入部を設置 書籍営業本部卸部を書籍卸部と改称	2.9~14 「秀作版画五人展」 2.9~14 「川上澄生版画展」 2.23~28 「洋画家珠玉淡彩素描展」 3.15~19 「『鑑賞大津絵』刊行記念街道の民画大津絵展」 3.- マルゼンタイムレコーダ「エコスト」発売 5.- 名古屋支店自費出版サービス業務開始 6.14~18 「現代日本版画秀作展」^⑧ 7.- マルゼン文具棚発売 8.18 名古屋市東区東桜 1 丁目 9 番 29 号に丸善ブックメイツ(株)設立、書籍・教材等の割賦販売、資本金 5 千万円、代表取締役大桑稔秀 9.27~10.2 「米国建国 200 年展名著に見るアメリカの歩み」 10.- マルゼンマイクロメイト発売 11.20 筑波大学学生会館内に財団書籍部売店開設 11.29~12.4 「フランスの文学と思想の本展示即売会」	1.31 五つ子誕生 2.4 ロッキード事件起る 2.13 公正取引委員会洋書ヤミ協定の疑いで洋書取扱業者を強制調査 9.9 毛沢東主席死去

社 内 事 項		国 内 ・ 国 外 事 項
9.6 大阪市西区阿波座上通1丁目32番地大成ビル本館2階に洋品卸部大阪営業所開設 10.30 中田正雄監査役退任 11.14 茨城県新治郡桜村天久保3丁目に丸善筑波ビル竣工 1977(昭和52)年 2.1 MASIS (Maruzen Scientific Information Service) センター新設 7.31 大阪支店梅田店閉鎖 9.10 洋品卸部札幌営業所札幌市北区8条西6丁目2番地松村ビル1階に移転 10.19 筑波支店茨城県新治郡桜村天久保3丁目9番1号に往居表示変更 10.29 海老原熊雄常務取締役選任, 司守敬取締役選任 11.21 横浜市中区弁天通2丁目25番地関内キャピタルビル6階に電子計算機販売部横浜営業所開設 12.1 秋田市手形山崎町6丁目10番地に秋田営業所開設 12.20 千代田区丸の内2丁目6番1号古河総合ビル地下1階に古河売店開設	1.31~2.5 『『納札と千社札』刊行記念資料展』 2.21~26 「ゲッチンゲン大学旧蔵医学古典文献展」 3.14~18 「エルゼビア社学術書展」 3.21~26 「ケルスティン・ティニ・ミウラによるヨーロッパの装幀芸術と創作マープル紙展」 4.- LC(米国議会図書館)カードサービス開始 6.27~7.2 「ドイツの思想と文学の本展示即売会」 7.11~15 「やさしい個人情報整理展」 8.22~26 「サムホール逸品展」 8.29~9.3 「寺田寅彦絵画展」 8.- 「はがきっこ」製造発売 9.7 飯泉社長主要取引先訪問のため渡欧 10.3~8 「万国郵便連合加盟100年『日本郵便錦絵集』刊行記念画展」 10.- リキッドペーパー発売 12.22~29 「春支度歳の市江戸千代紙と江戸おもちゃ即売展」 ⑧ - マルゼン図書館サービスシステム開発 - 株価急騰	5.2 領海12カイリ漁業水域200カイリ法成立(7.1スタート) 8.7 北海道有珠山爆発 10.1 伊藤忠商事安宅産業を吸収合併 10.28 1ドル250円を割る, 円高ドル安 この年, 洋書をはじめ輸入品の円高差益問題となる 戦後最大の不況
1978(昭和53)年 4.1 東京本店外雑予約センター・仕入部外雑仕入課・商品管理	1.- マルゼン Dialog 検索サービスをMaruzen International	5.20 成田空港開港 9.18 八重洲ブックセンター開

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項	
第二・第三課を統合し、外国雑誌 予約センター設置 4.1 横浜市金沢区六浦町 4384 関東学院大学 9 号館 2 階に関東 学院大学購買部売店開設 6.1 本社第 2 ビル内にコンピ ュータ室開設 6.26 郡山市安積町日出山字一 本松 100-11 に郡山営業所開設 8.1 千代田区内幸町 2 丁目 2 番 1 号日本プレスセンタービ ル 1 階にプレスセンター丸善店 開設 8.8 仙台丸善ビル竣工 9.6 弘前市本町 39 に弘前営業 所開設 10.28 岡田稔・井家正人取締役 選任、関正文取締役選任 11.8 横浜市中区弁天通 2 丁目 34 番地の 1 に丸善横浜ビル竣工	Co. を中継して取扱い開始 2.6~10 「小磯良平版画展」 2.13~17 「彫刻家のデッサン 展」 3.6~11 「シュプリングー社学 術書展」 3.- クラフトセンター・ジャパ ン機関誌再刊(「手—もうひとつ の生活」) 4.3~8 「大佛次郎“バリ燃ゆ” 資料展」 8.12 Maruzen Asia(Pte)Ltd. を Unit Nos. 5F-9F, Block 7, 51 Ayer Rajah Industrial Es- tate, Singapore 0513 に設立。 資本金 100,000 シンガポールド ル, 社長飯泉新吾 8.21~25 「示現会会員 12 人展」 9.11~16 「呉建絵画遺作展」 9.25~30 「オックスフォード 大学出版局創立 500 年記念展」 10.23~28 「没後 200 年に因ん でヴォルテール・ルソー文献展」 10.- ミノルタ LC プリンター 総発売元となる 10.- マルゼンタイプライター 「シングルエレメント μ」発売 11.2 丸善ブックメイツ名古屋 セントラルパーク店開設	店 10.26 円高, 1ドル 180 円を割 る
1979(昭和 54)年		
4.1 山形市飯田 410-7 に山形 営業所開設 10.1 山口市中央 2 丁目 6 番 18 号前田ビル 2 階に山口営業所開 設 10.30 海老原熊雄代表取締役 選任 11.10 大津市栄町 9 番 7 号三 共ビル 2 階に滋賀営業所開設 11.30 八王子営業所八王子市 八日町 12 番 1 号千代田生命八王	1.25~31 「『川上澄生全集』刊 行記念川上澄生版画展」 2.14 飯泉社長中国図書進口公 司の招請により訪中 2.26~3.3 「ジャクリーヌ・デ ュエムえほん『月のオペラ』原画 展」 3.6 MASISセンターロッキ ード社とのオンラインによる Dialog 検索開始 3.19~24 「木下圭太郎『百花	1.13 国立大学共通一次試験実 施 6.6 一世一元の元号法成立(12 日施行) 6.28 東京サミット開催 11.4 イランの米大使館占拠事 件起る

社 内 事 項	国 内 ・ 国 外 事 項
子ビル2階へ移転 譜』刊行記念原画展」 4.1 洋書流通対策委員会設置 4.2～7 「Academic Press 学術書展」 4.23～28 「画集『酒井不二雄の仕事』出版記念東京おもかげスケッチ展」 6.4～9 「オーストラリア州立クィーンズランド大学展」 6.9 飯泉社長米国主要取引先訪問のため渡米 6.11～15 「『ヨーロッパの紋章』刊行記念資料展」 6.- 電動和文小型タイプライター「マルゼンフルオート」発売 7.23～8.3 「大人たちのブロック展と北欧のおもちゃ即売会」 8.6～26 上海・長春両市において開催の「日本図書展覧」に参加 出展 9.20 創業110周年記念パーティー開催(於ホテルオークラ) 9.25～29 「ドイツ民主共和国建国30周年記念ドイツ学術書展」 10.1～6 「『立原道造詩画』刊行記念バステル画展」 10.8～19 「岩波書店グランドブックフェア」 11.5 本店和書売場にNIPS(日販出版情報検索システム)設置 11.24～30 「フランスの文学と思想書展」 11.27 日暮里工場内に丸善システムサービス(株)設立、資本金1千万円、代表取締役金沢康雄(業務開始 55.2.1)	